

2021年度まちづくりネットモニター第5回調査結果 テーマ「郡山市の環境について」



現在、本市では第三次環境基本計画に基づき各種環境施策を推進しておりますが、本市を取り巻く環境の変化に対応した施策の推進を目的に、今年度、令和4年度～令和7年度（4年間）を計画期間とする新たな「郡山市第四次環境基本計画」を策定することとしております。

この度、計画策定に伴い基礎資料とするためアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(環境政策課)

【調査概要】

- 調査期間 令和3（2021）年7月14日（水）～7月23日（金）10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 360名（男性164名 女性196名）
- 回答者数 331名（男性153名 女性178名）
- 回答率 91.9%

【分析】

《回答者内訳》

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総数
男性	3人	5人	14人	29人	36人	12人	43人	11人	153人
女性	4人	12人	32人	63人	44人	19人	3人	1人	178人
総数	7人	17人	46人	92人	80人	31人	46人	12人	331人

《関心のある環境に関するテーマ》

全てのテーマについて「関心がある」以上の割合が80%超え、環境に対する関心が高くなっている。「大いに関心がある」と「関心がある」を合わせた割合の上位3項目は、「自然災害の防止について」（97.0%）、「ごみの減量やリサイクルについて」（93.6%）、「気候変動（地球温暖化）について」（92.7%）となっている。「ごみの減量やリサイクルについて」以外は、前回調査（H28）より割合が増加した。

「関心がない」の割合は、「環境教育・環境学習について」（8.8%）の次に同率で「生活排水や事業場からの排水による水質汚濁について」（8.5%）と「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーについて」（8.5%）が続いているが、その割合は「大いに関心がある」と「関心がある」に比べると非常に低い。

《お住いの地域を中心としたここ4～5年の生活環境の変化》

ほぼ全ての項目で「変わらない」が約半数の割合となっている。「良くなっている」と「どちらかというとならなくなっている」を合わせた割合の上位3項目は、「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの普及状況について」（47.7%）、「ごみの分別やリサイクルの実施状況について」（43.5%）、「歩道や自転車専用道路の整備状況について」（39.5%）となっている。

「悪くなっている」と「どちらかというとならなくなっている」を合わせた割合の上位3項目は、「気候変動（地球温暖化）の現状について」（74.3%）、「鳥などの動物、虫や魚などの身近な生き物の生息状況について」（51.0%）、「森林や田畑などの自然環境について」（48.0%）となっている。

《日常生活における環境への取組み》

日常生活の中で環境に配慮している取組みの上位3項目は、「買い物をする際はエコバックを持参するようにしている」(83.7%)、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」(67.4%)、「テレビや照明などはこまめに消す」(61.9%)となっている。前回調査(H28)と変わらないが、「テレビや照明などはこまめに消す」の割合は減少した。

環境保全活動への参加意向は、「積極的に参加したい」と「都合のつく範囲で参加したい」を合わせた割合が78.3%で、前回調査(H28)より3.1ポイント減少した。前回調査(H28)に比べ「積極的に参加したい」と「参加したいと思わない」の割合は増加し、「都合のつく範囲で参加したい」の割合は減少した。

《郡山市の環境に関する取組み》

知っている郡山市の環境施策の上位3項目は、「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」(58.6%)、「市役所敷地内への電気自動車用急速充電器の設置」(42.0%)、「使用済み小型家電回収ボックスの設置」(38.7%)となっている。前回調査(H28)と比べ、「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」は10.9ポイント減少し、「市役所敷地内への電気自動車用急速充電器の設置」は18.2ポイント増加した。

より良い環境づくりを進めるために郡山市が力を入れて取り組むべき施策の上位3項目は、「コミュニティバスなど公共交通機関の充実」(59.2%)、「自然災害に強い安全なまちづくり」(57.7%)、「食品ロスを含むごみの減量化」(41.7%)となっている。

【考察】

・自然災害に対しては、市民の関心が高く、「郡山市が力を入れて取り組むべき施策」の上位にあげられている。近年の自然災害の多発化・激甚化は、多くの市民が関心を持ち、悪くなっていると回答した「気候変動(地球温暖化)」の影響が大きいとされており、環境施策と連携した対策が望まれる。

・ごみ問題は市民の関心が高く、ごみの削減となるエコバックの活用や分別・リサイクルが進められている様子がうかがえる。新しい法律の施行なども踏まえ、市民の関心の高さを生かしたごみ対策をこれからも積極的に進めていく必要がある。

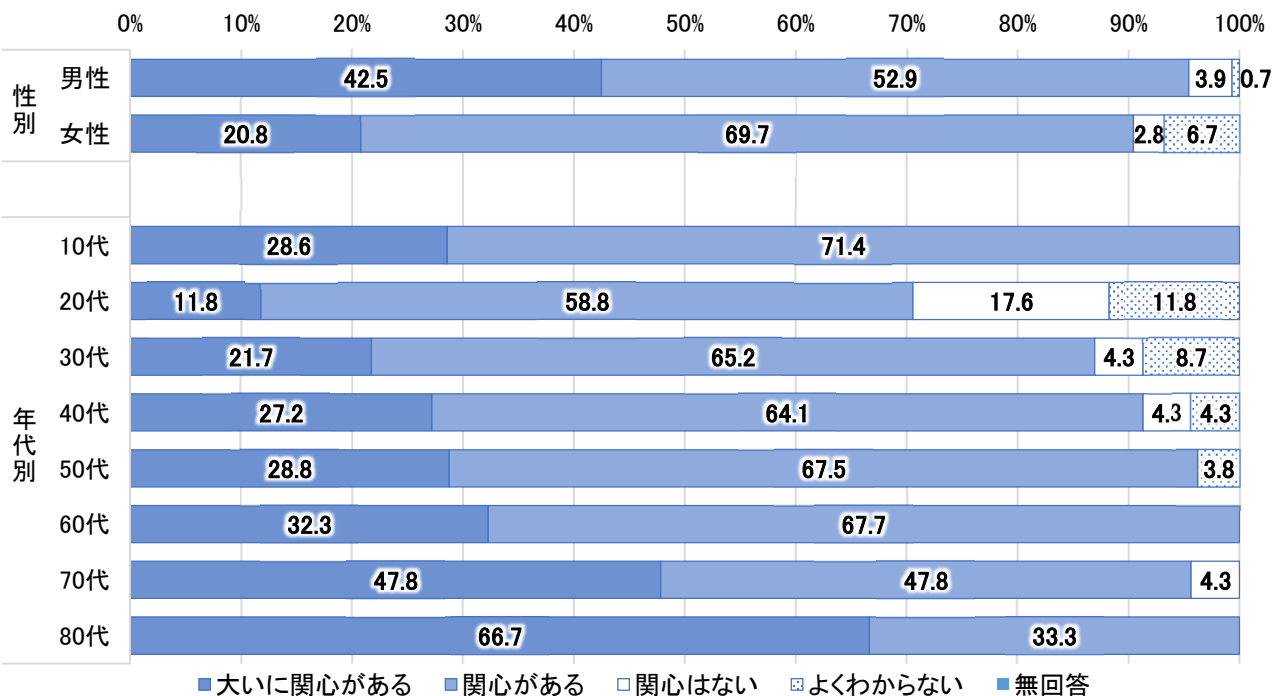
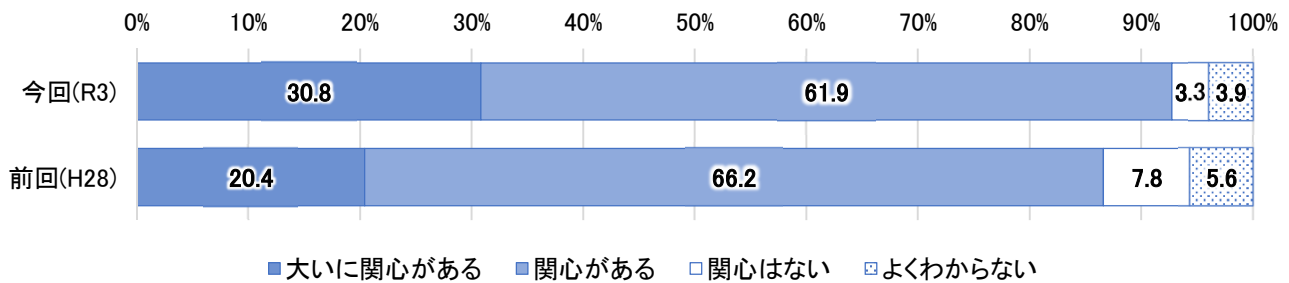
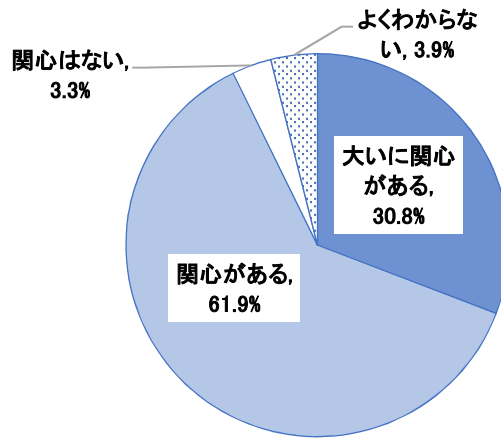
・多くの市民に求められている自然災害対策や公共交通機関の充実などは、環境施策だけではなくまちづくりと連動して進めていく必要がある。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
 ※過去の調査結果との比較を示すグラフでは、今回の結果を「今回(R3)」、平成28年度まちづくりネットモニター第12回調査の結果を「前回(H28)」と示しています。

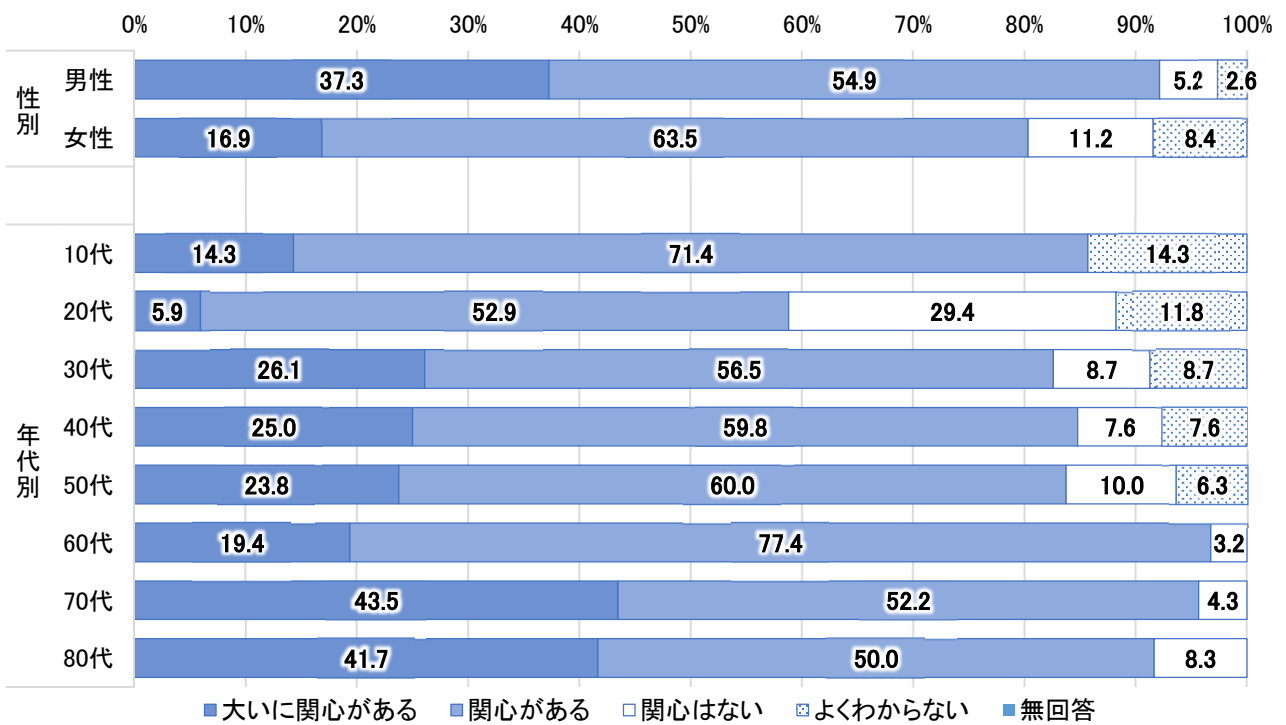
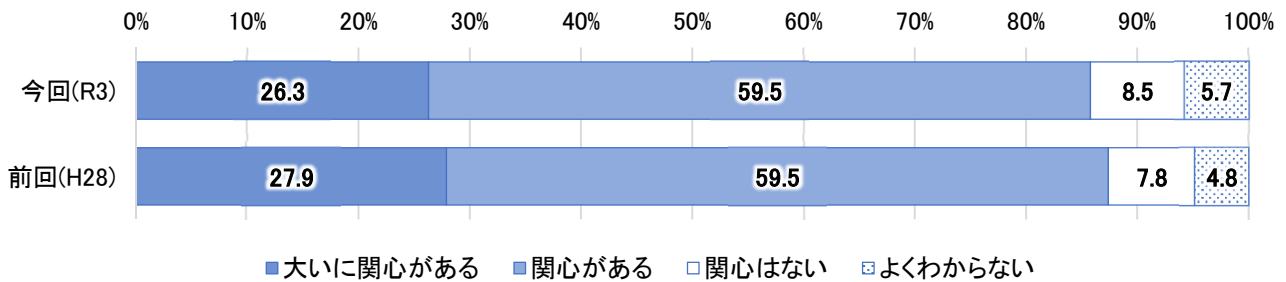
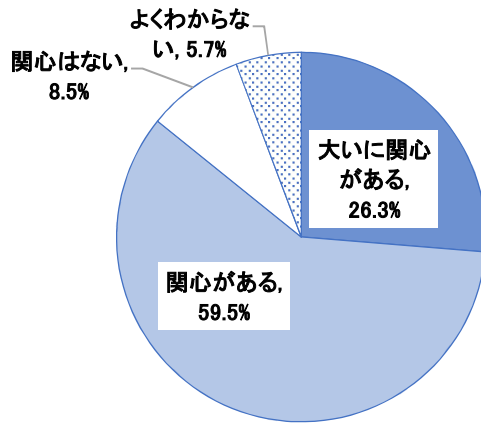
第1章 関心のある環境に関するテーマについて

問1 気候変動(地球温暖化)について(1つ選択)

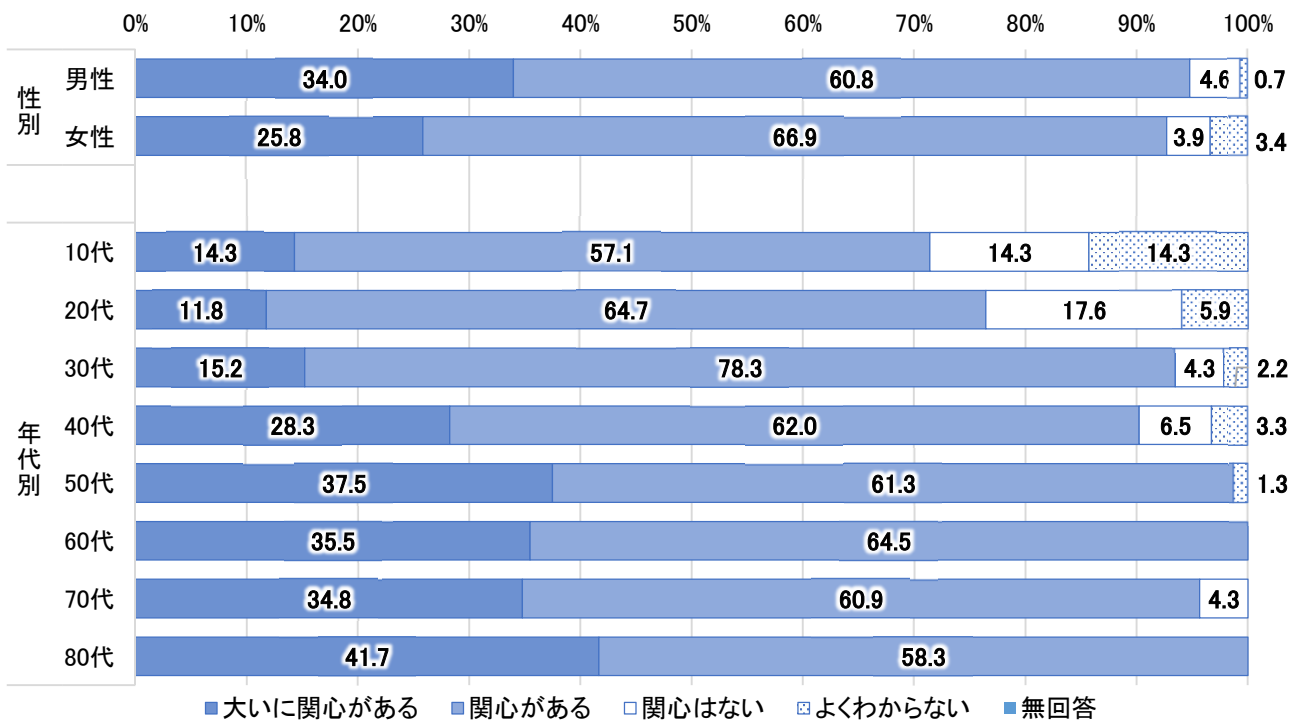
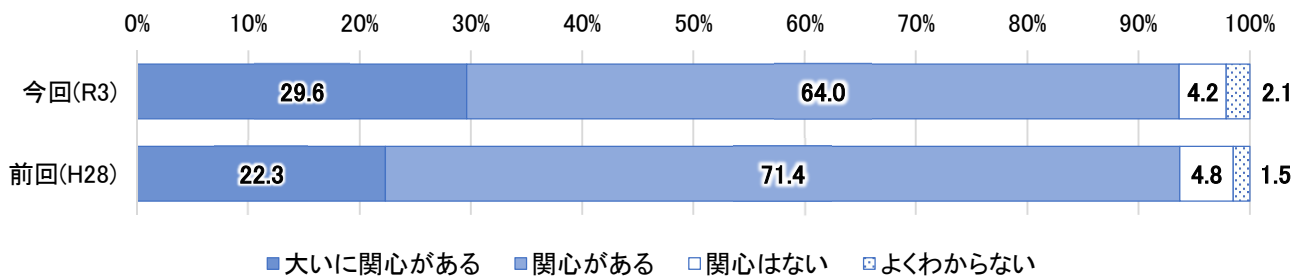
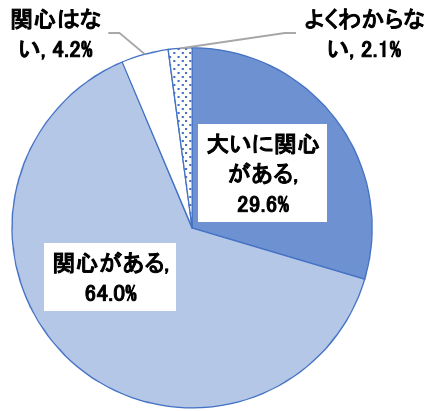
(回答者：331人)



「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は92.7%で、前回調査と比べると6.1ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに90%を超えており、男性の方が女性よりも4.9ポイント高い。年代別では、10代、60代、80代の100.0%が最も高く、20代の70.6%が最も低い。
 市民の気候変動に対する関心は高いと言える。



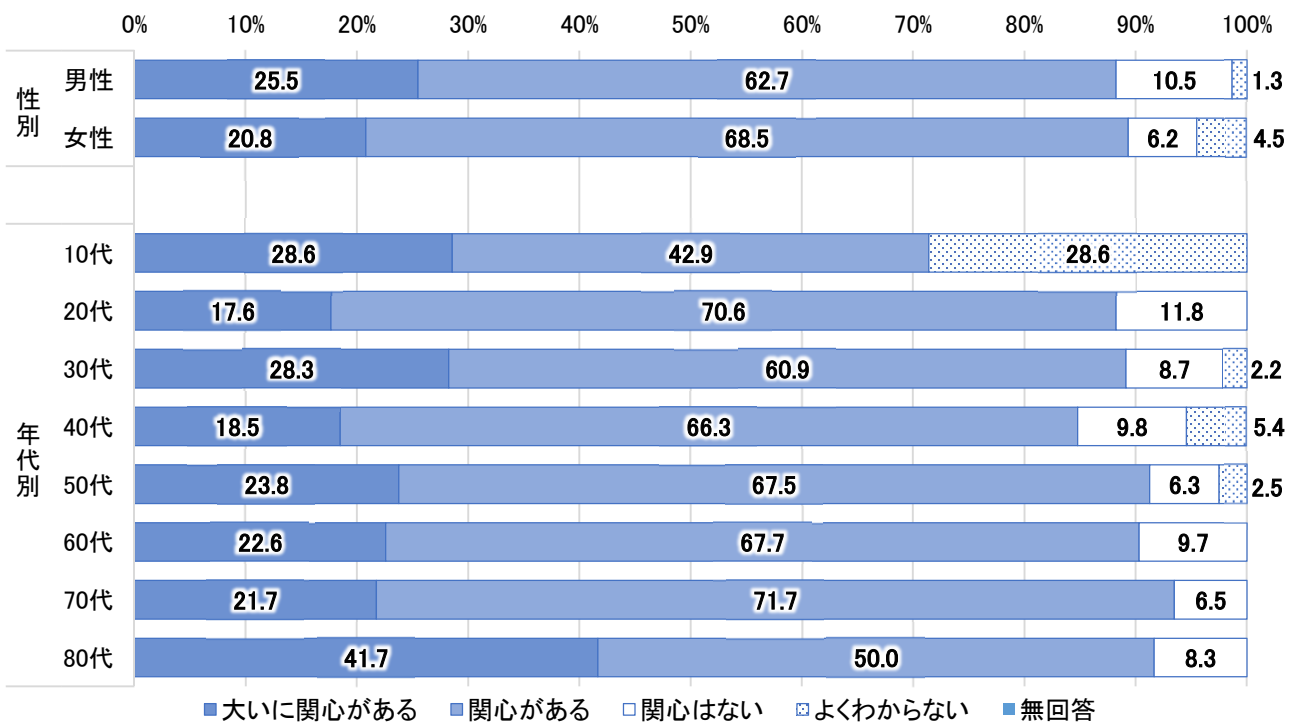
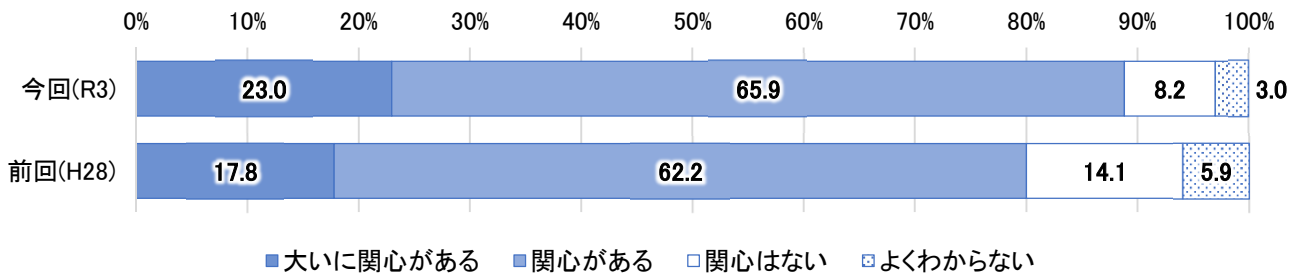
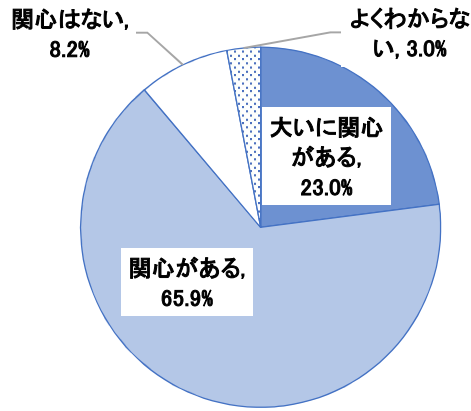
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は85.8%で、前回調査と比べると1.6ポイント低くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも11.8ポイント高い。年代別では、60代の96.8%が最も高く、20代の58.8%が最も低い。



「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は93.6%で、前回調査より0.1ポイント低くなっている。

性別では、男性、女性ともに90%を超えており、男性の方が女性よりも2.1ポイント高い。年代別では、60代、80代の100.0%が最も高く、10代の71.4%が最も低い。

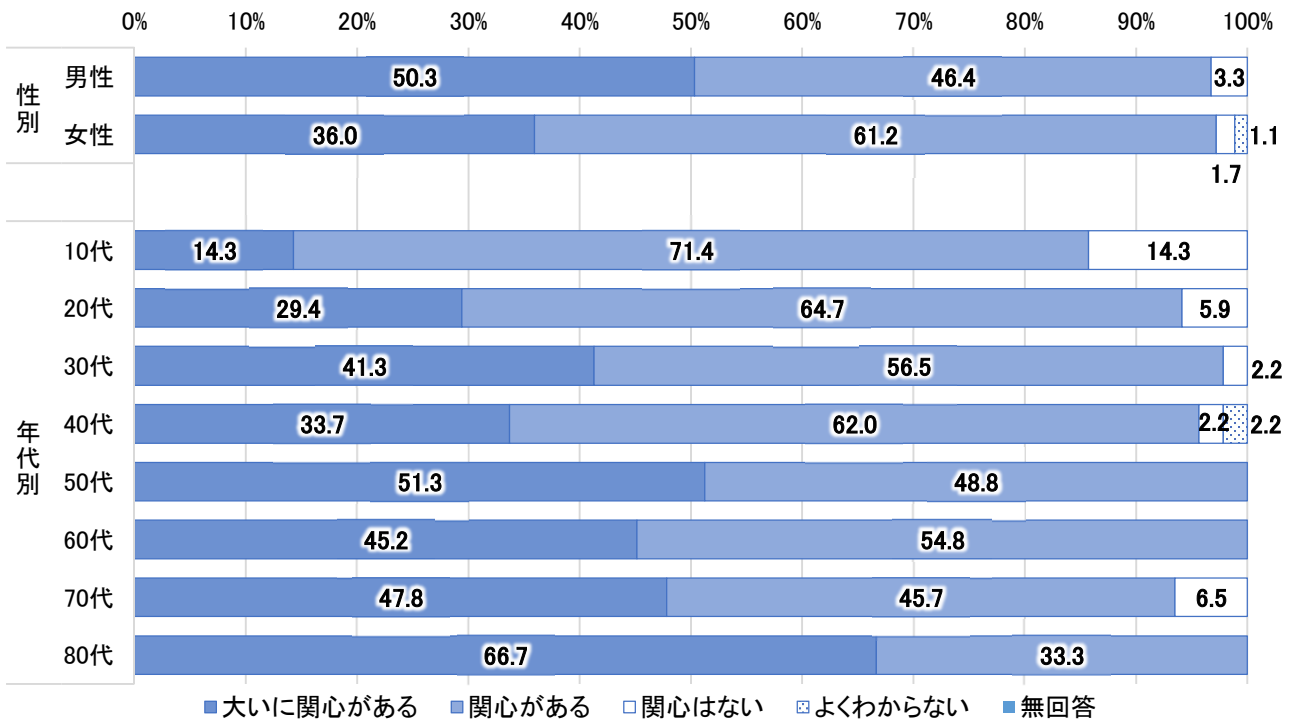
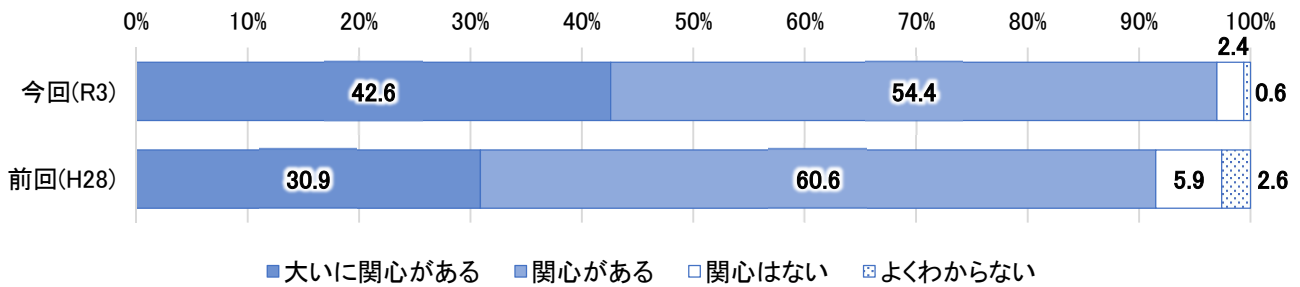
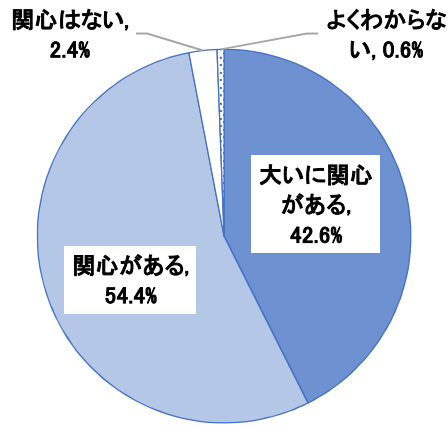
9割を超える市民がこの問題に関心があり、具体的な行動に結びつく施策を充実させる必要がある。また、関心が低い10代から20代に向け、行動変容を促す取り組みも重要である。



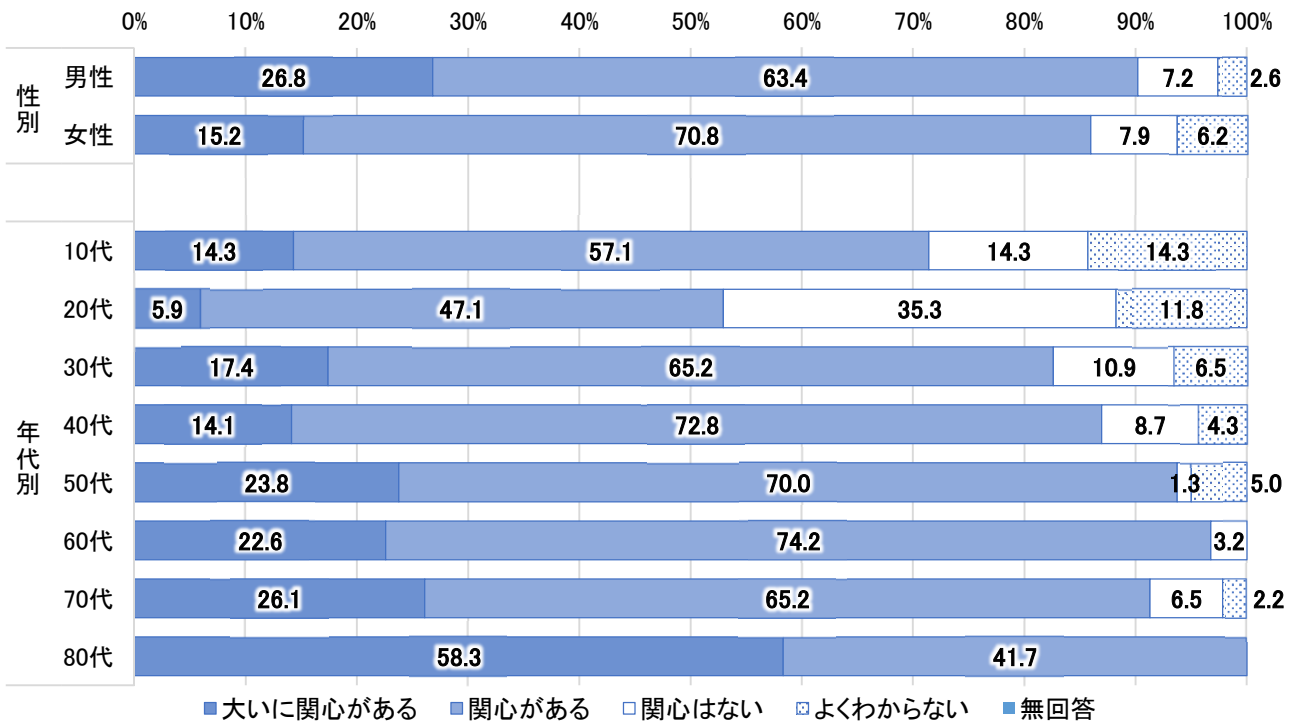
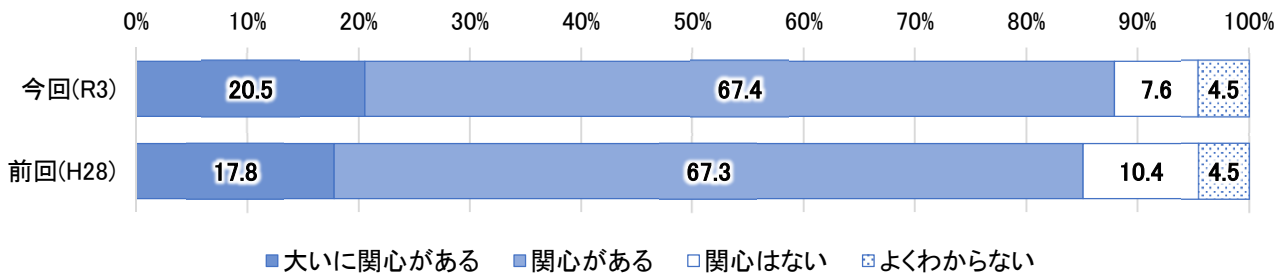
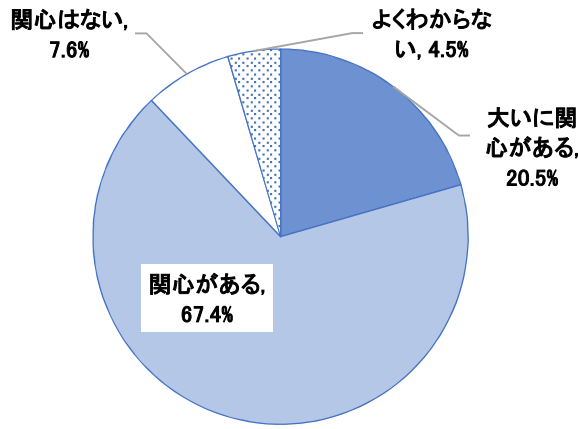
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は88.9%で、前回調査と比べると8.9ポイント高くなっている。

性別では、男性、女性ともに80%を超えており、女性の方が男性よりも1.1ポイント高い。年代別では、70代の93.4%が最も高く、10代の71.5%が最も低い。

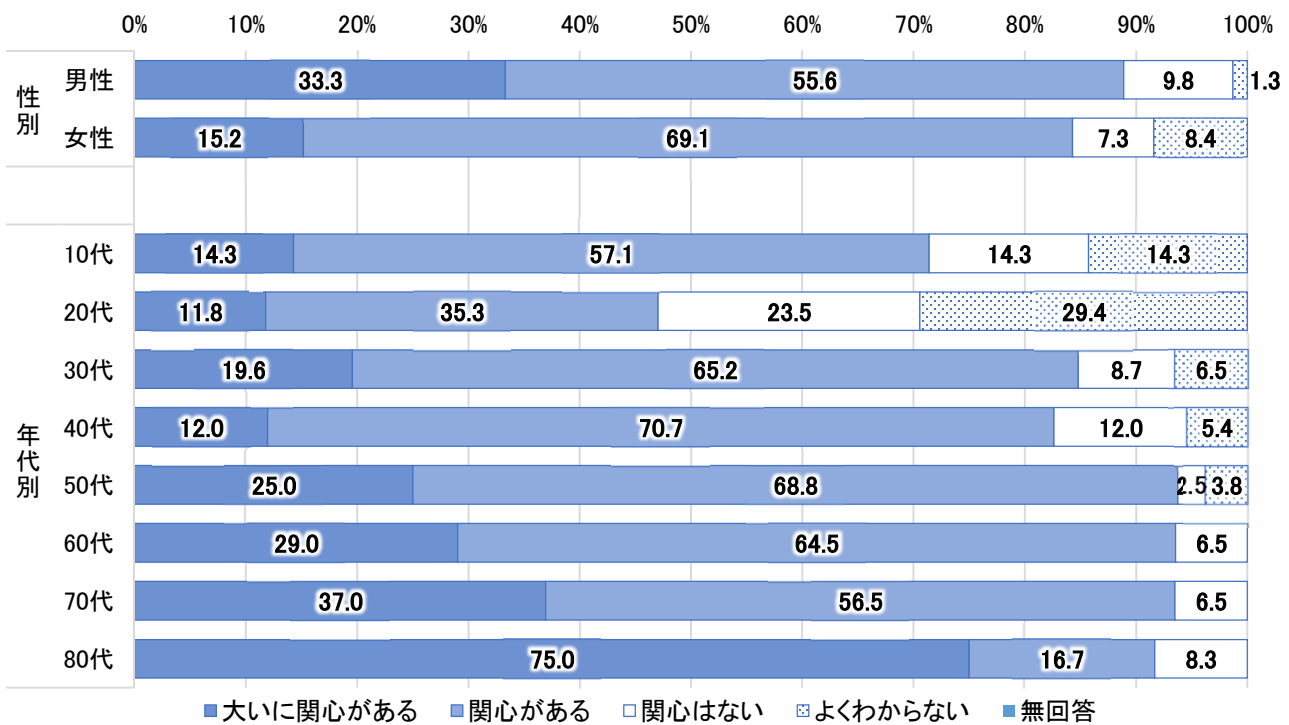
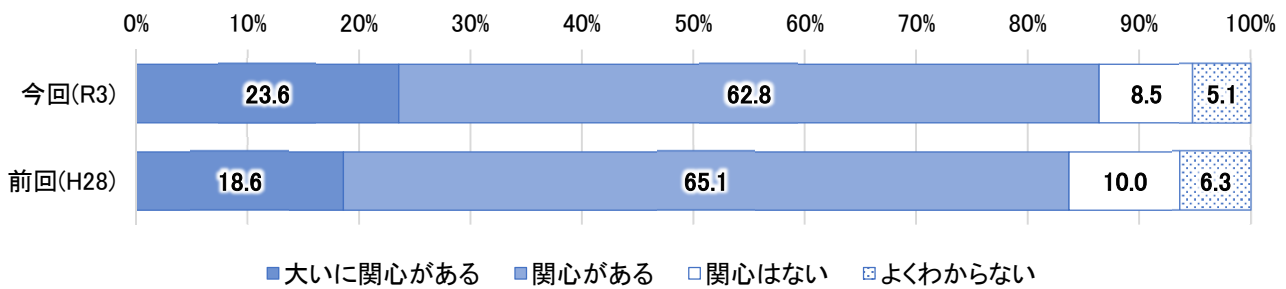
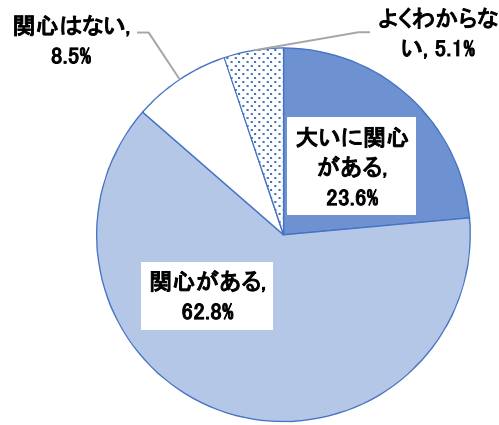
マイクロプラスチックによる海洋汚染や、地球温暖化による生態系への影響等が世界的な問題として取り上げられる機会が増加しているためと考えられる。



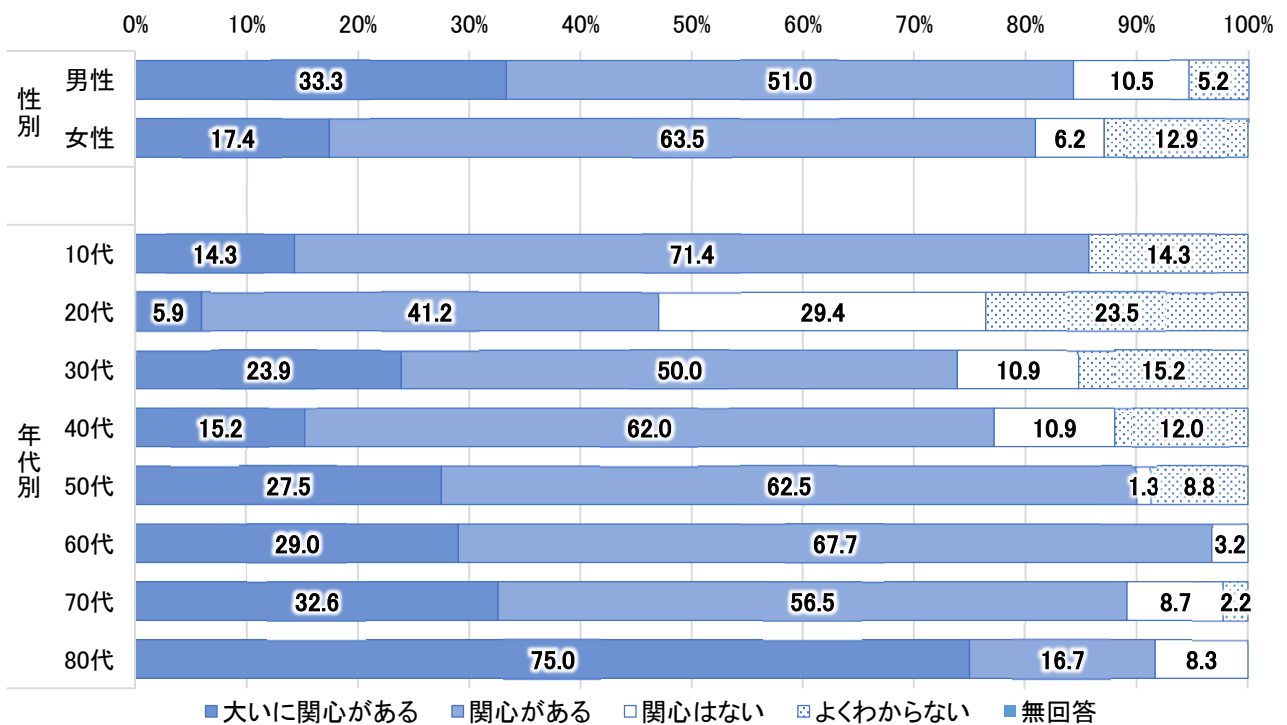
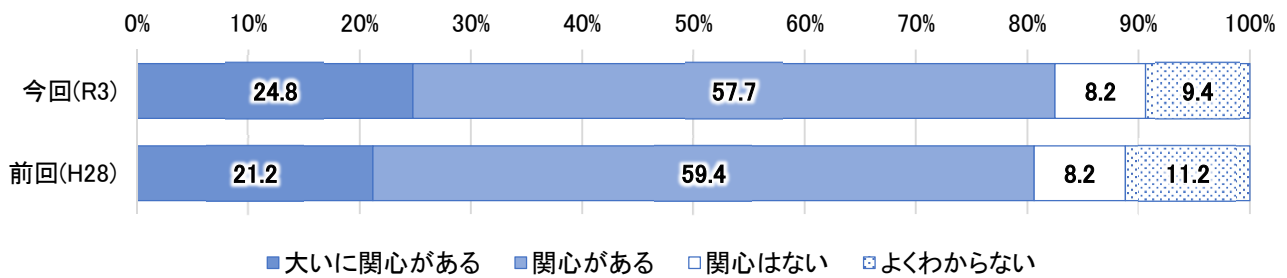
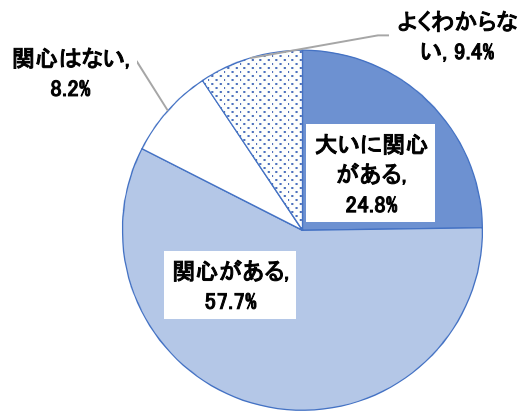
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は97.0%で、前回調査と比べると5.5ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに90%を超えており、その差はほとんどない。年代別では、50代、60代、80代の100.0%が最も高く、10代の85.7%が最も低い。
 近年、大雨による災害が毎年のように全国各地で発生しており、関心が高まっているものと考えられる。



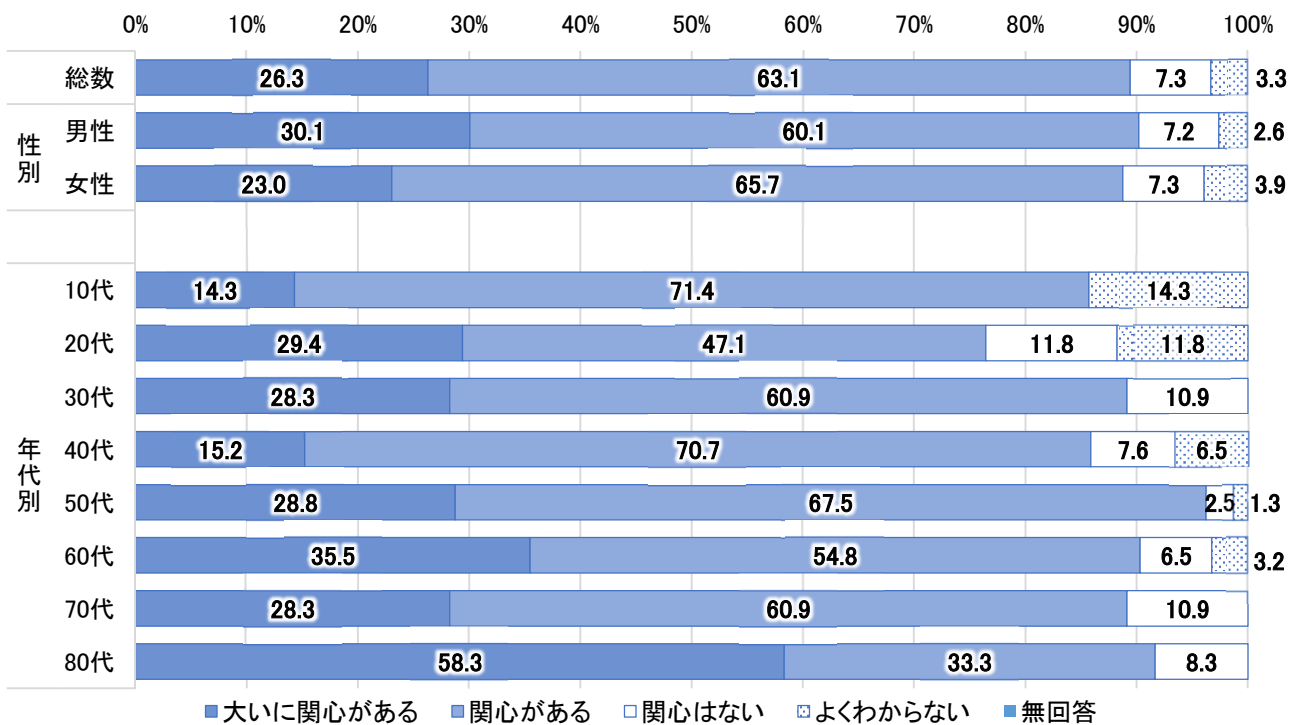
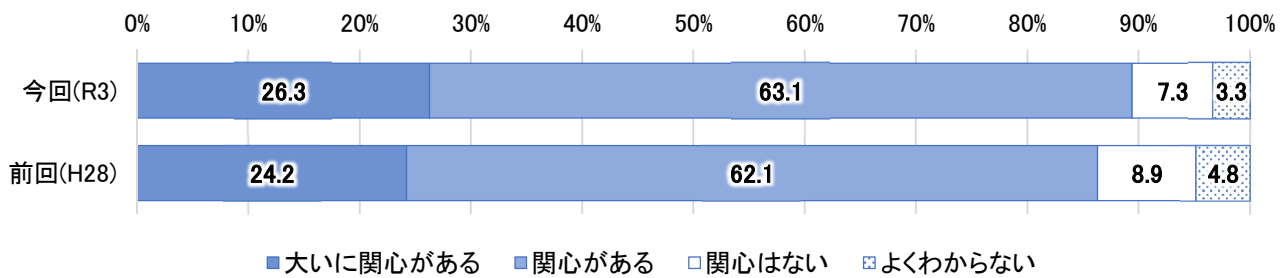
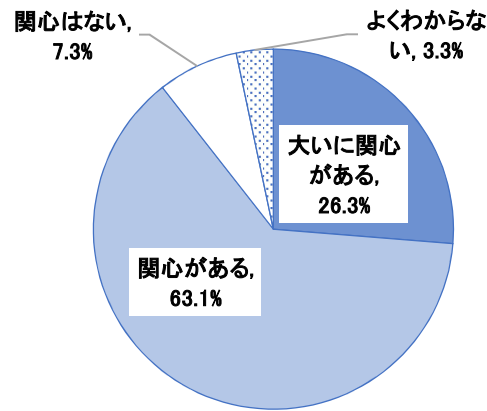
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は87.9%で、前回調査と比べると2.8ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも4.2ポイント高い。年代別では、80代の100.0%が最も高く、20代の53.0%が最も低い。



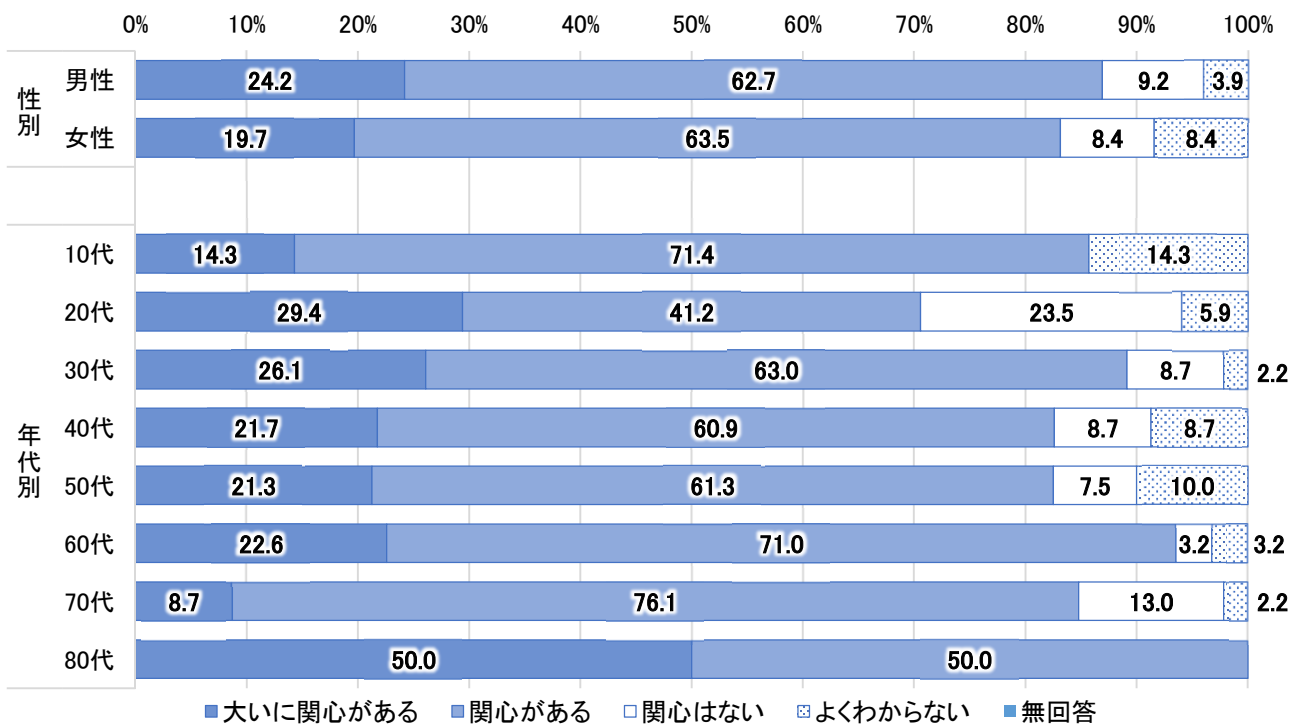
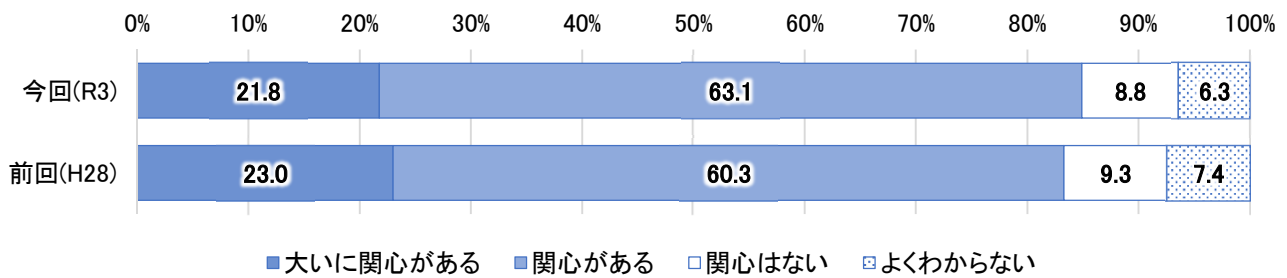
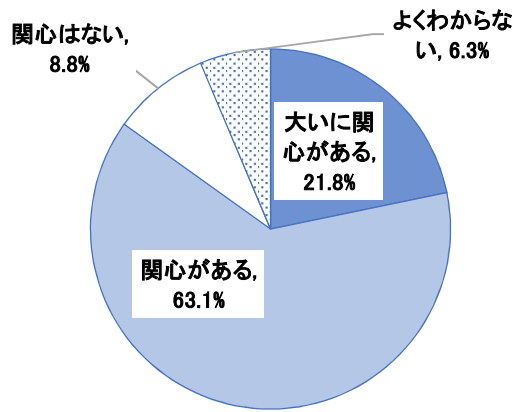
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は86.4%で、前回調査と比べると2.7ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも4.6ポイント高い。年代別では、50代の93.8%が最も高く、20代の47.1%が最も低い。



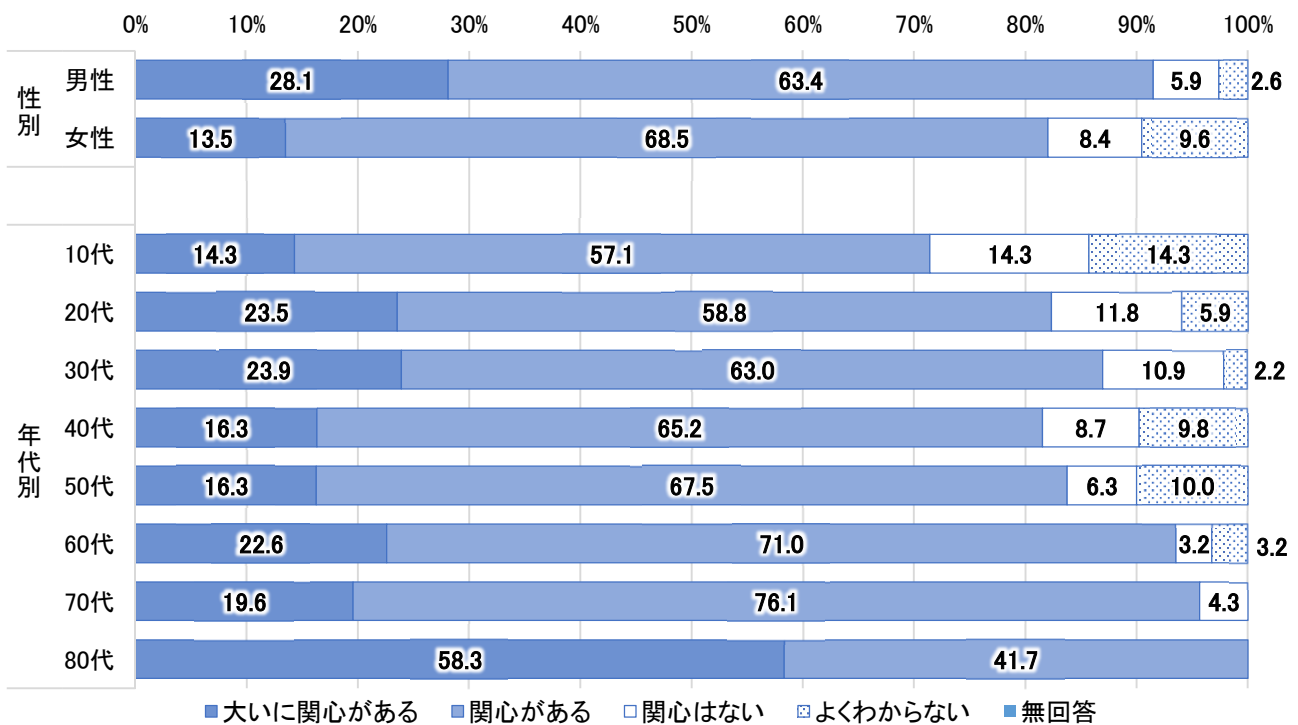
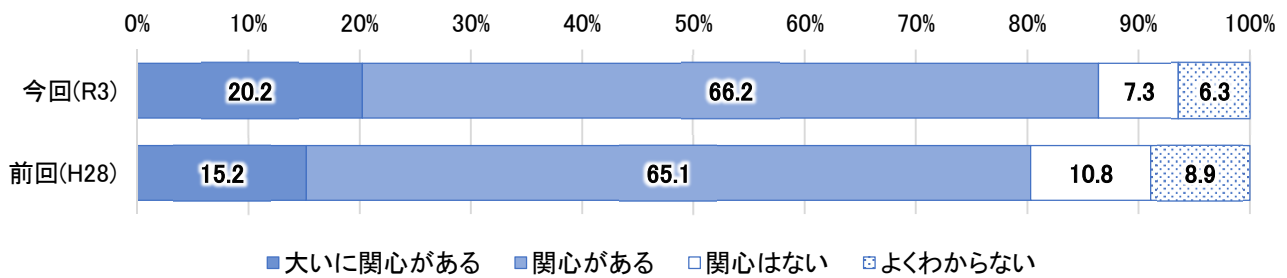
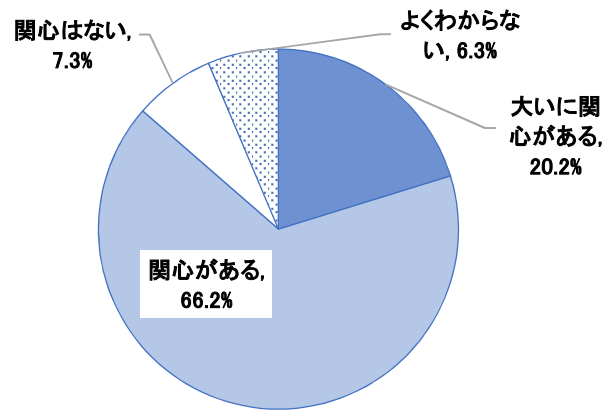
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は82.5%で、前回調査と比べると1.9ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも3.4ポイント高い。年代別では、60代の96.7%が最も高く、20代の47.1%が最も低い。



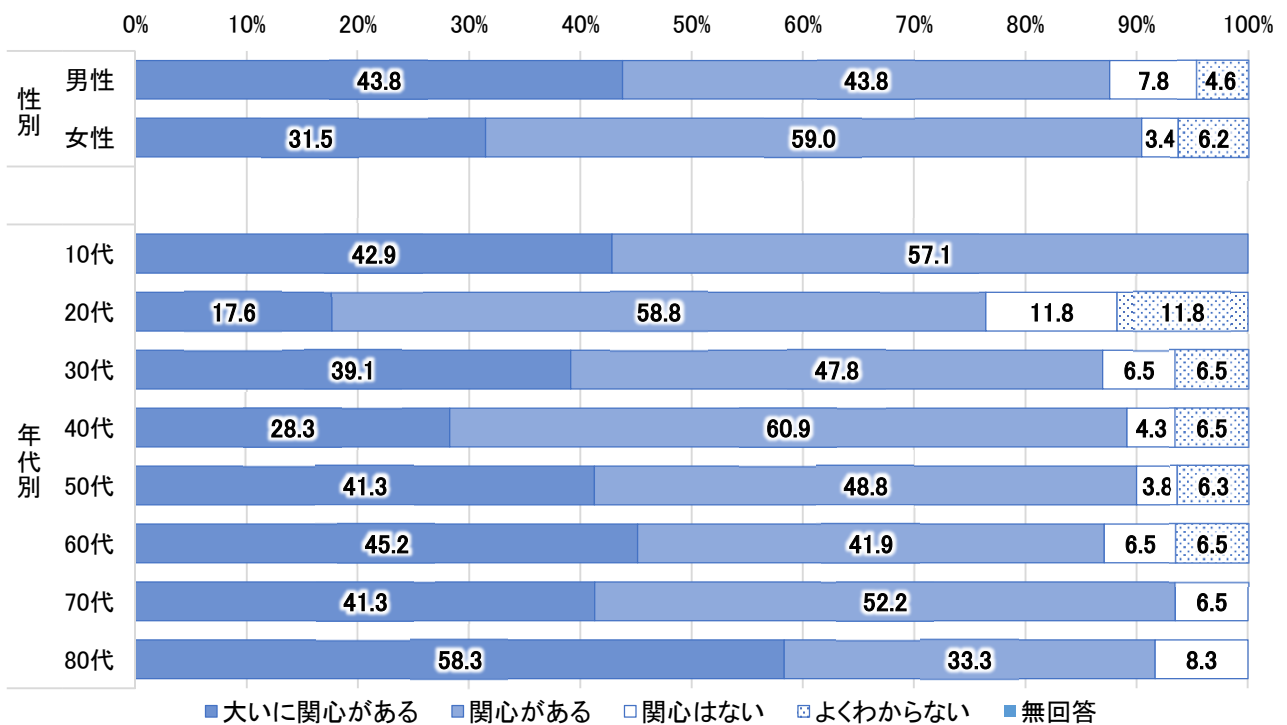
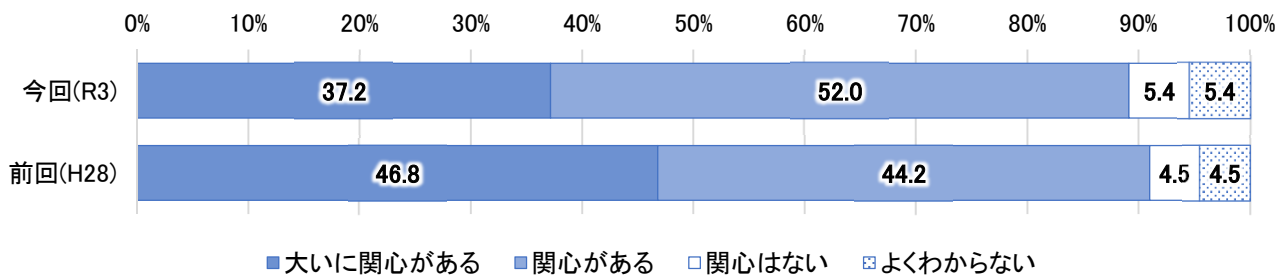
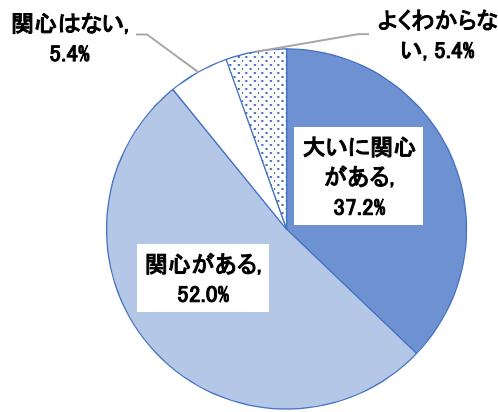
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は89.4%で、前回調査と比べると3.1ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも1.5ポイント高い。年代別では、50代の96.3%が最も高く、20代の76.5%が最も低い。



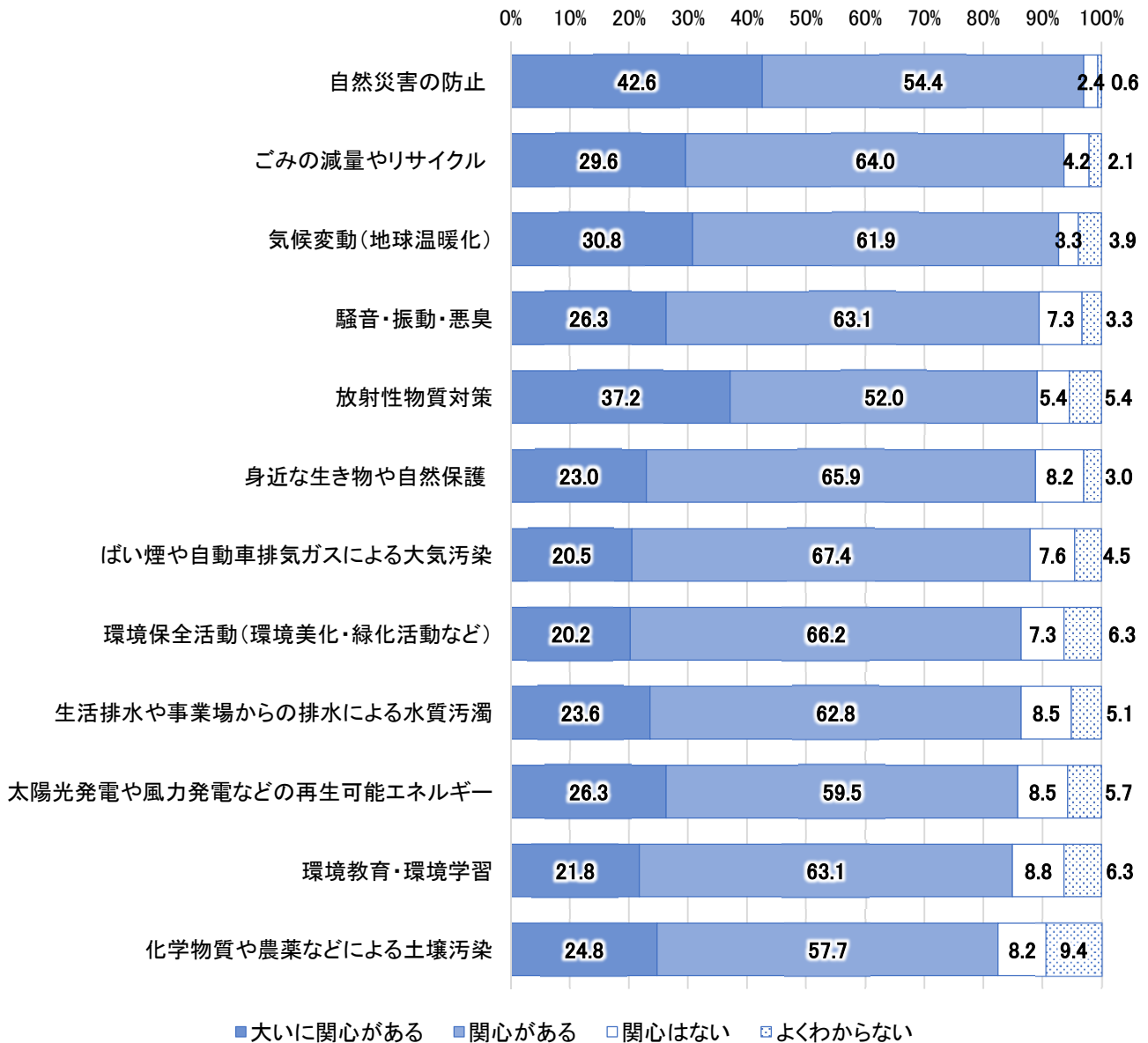
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は84.9%で、前回調査と比べると1.6ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも3.7ポイント高い。年代別では、80代の100.0%が最も高く、20代の70.6%が最も低い。



「大いに関心がある」と「関心がある」を合わせた割合は86.4%で、前回調査と比べると6.1ポイント高くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、男性の方が女性よりも9.5ポイント高い。年代別では、80代の100.0%が最も高く、10代の71.4%が最も低い。



「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は89.2%で、前回調査と比べると1.8ポイント低くなっている。
 性別では、男性、女性ともに80%を超えており、女性の方が男性よりも2.9ポイント低い。年代別では、10代の100.0%が最も高く、20代の76.4%が最も低い。



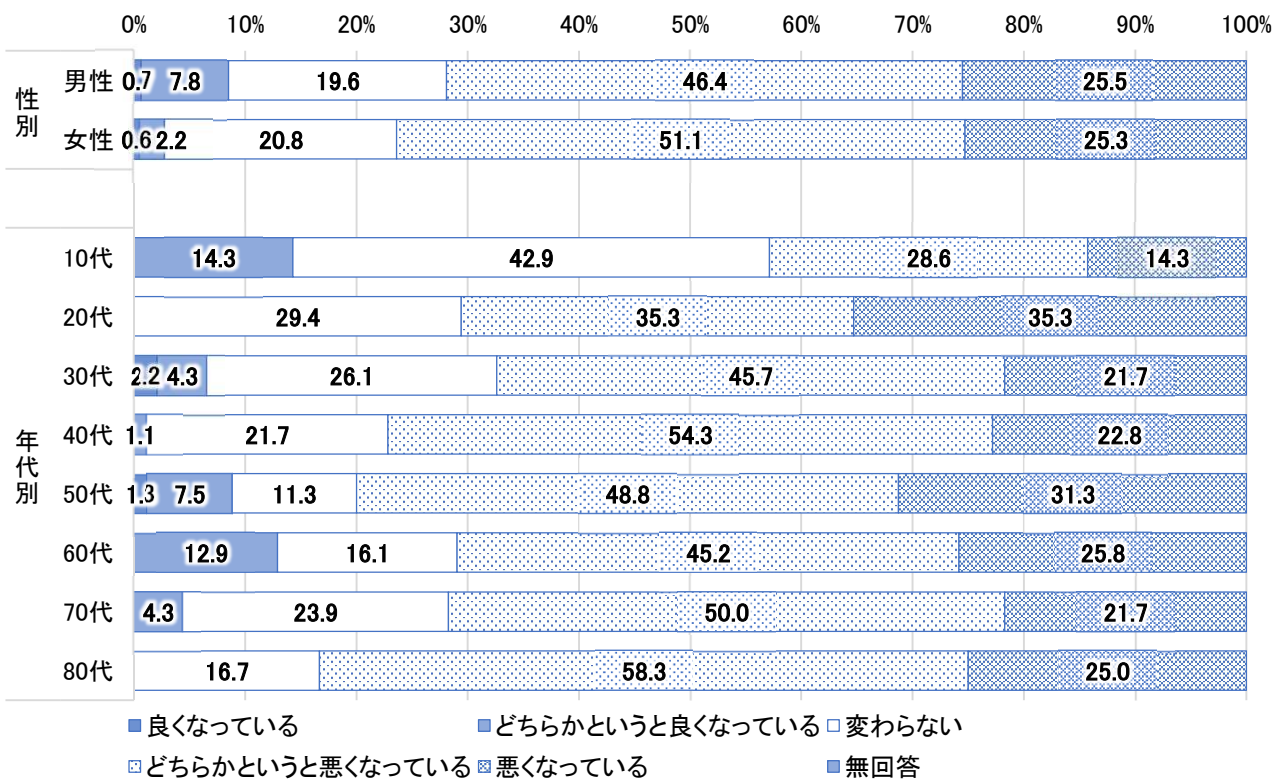
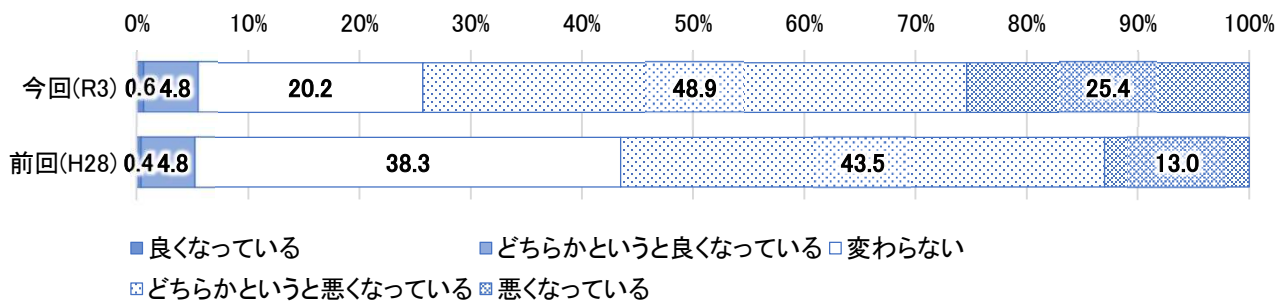
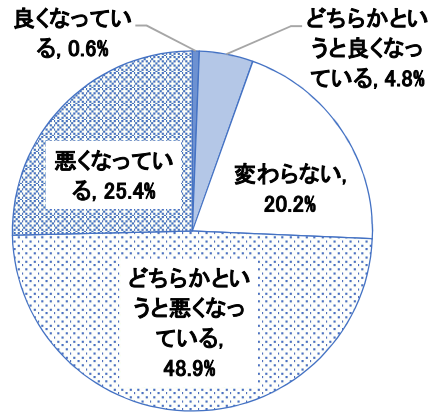
「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は、「自然災害の防止について」(97.0%)、次いで「ごみの減量やリサイクルについて」(93.6%)、「気候変動(地球温暖化)について」(92.7%)の順に高くなっている。

「興味はない」の割合が8.8%でもっとも高い「環境教育・環境学習について」も含めて、全ての項目で、「大いに興味がある」と「興味がある」を合わせた割合は80%を超えている。

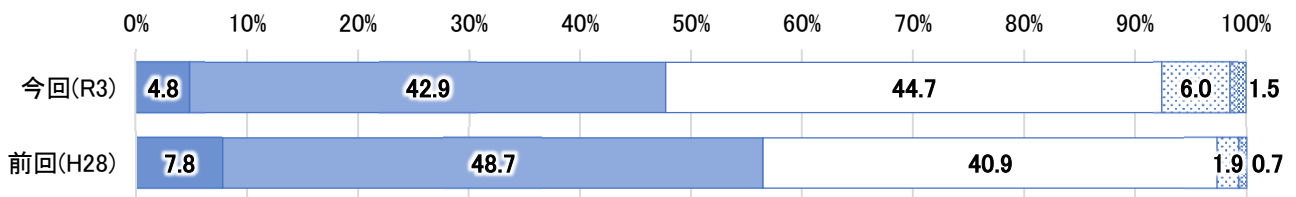
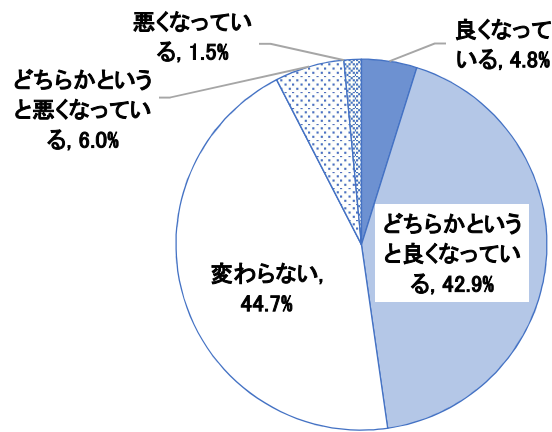
第2章 お住まいの地域を中心としたここ4～5年の生活環境の変化について

問13 気候変動(地球温暖化)の現状について(1つ選択)

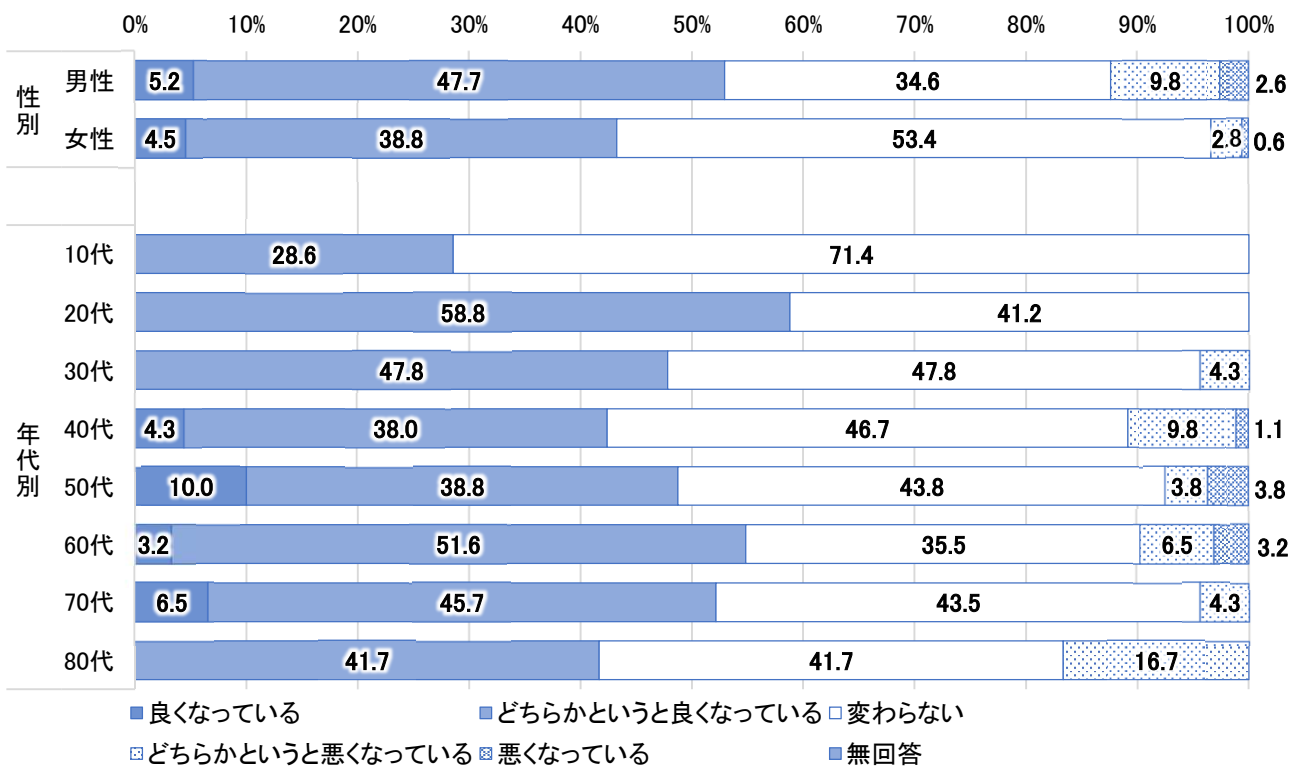
(回答者：331人)



「どちらかという悪くなっている」が48.9%で最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかという良くなっている」を合わせた割合は5.4%で、前回調査と比べると0.2ポイント高くなっている。年代別では、10代が最も高い。
 「どちらかという悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は74.3%で、前回調査と比べると17.8ポイント高くなっている。年代別では、80代が最も高い。
 7割を超える市民が悪化していると感じる理由は、毎年の猛暑、大雨による災害の増加等が考えられる。

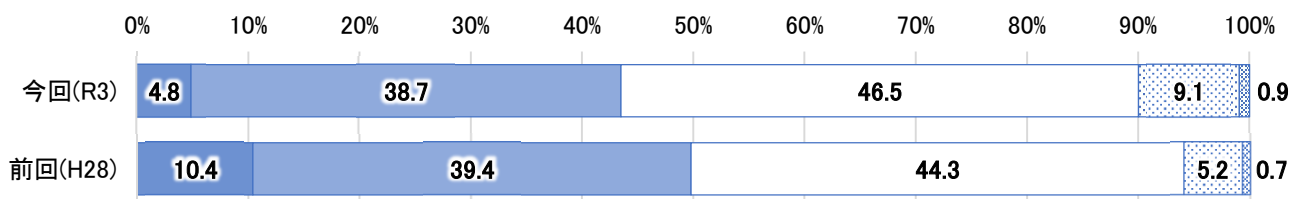
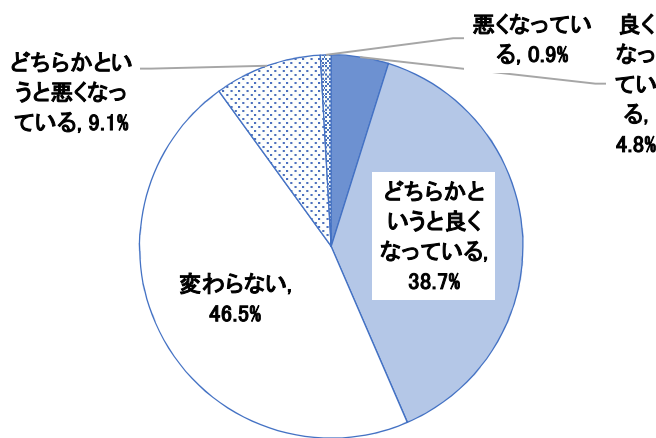


■良くなっている ■どちらかというと良くなっている □変わらない
 ▨どちらかというと悪くなっている ▩悪くなっている

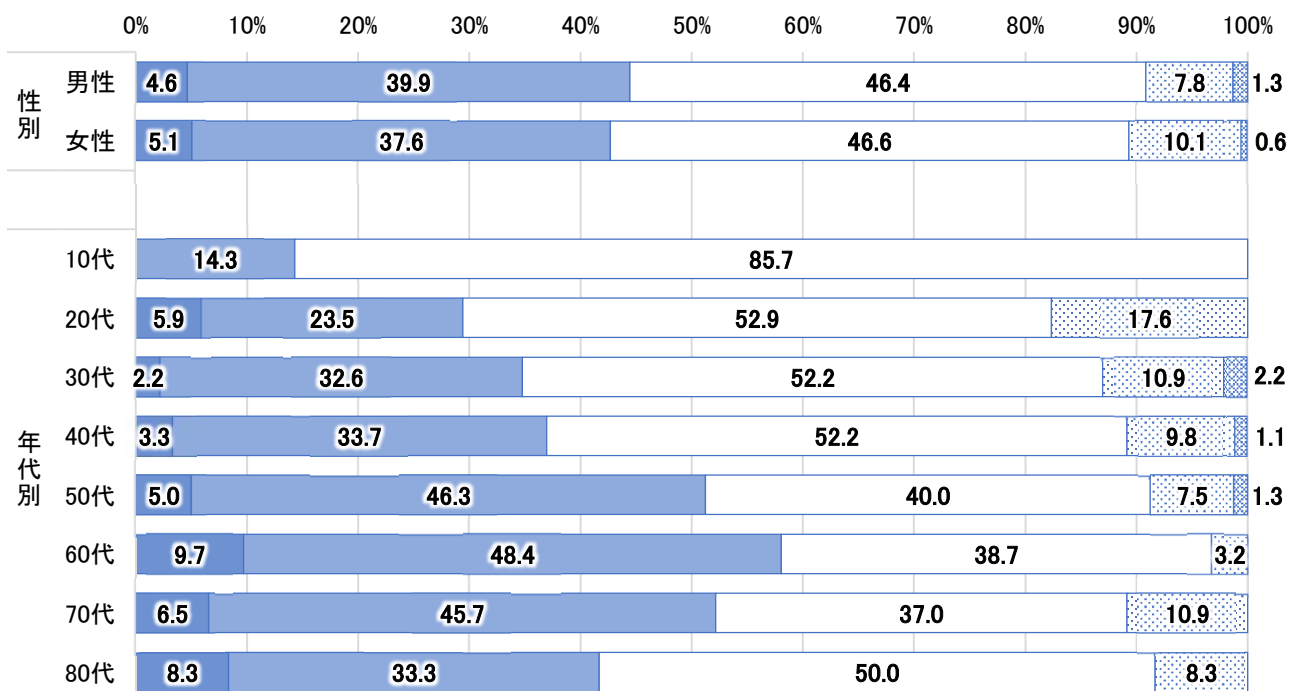


■良くなっている ■どちらかというと良くなっている □変わらない
 ▨どちらかというと悪くなっている ▩悪くなっている ■無回答

「変わらない」(44.7%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は47.7%で、前回調査と比べると8.8ポイント低くなっている。年代別では、20代で最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は7.5%で、前回調査と比べると4.9ポイント高くなっている。年代別では、80代が最も高い。

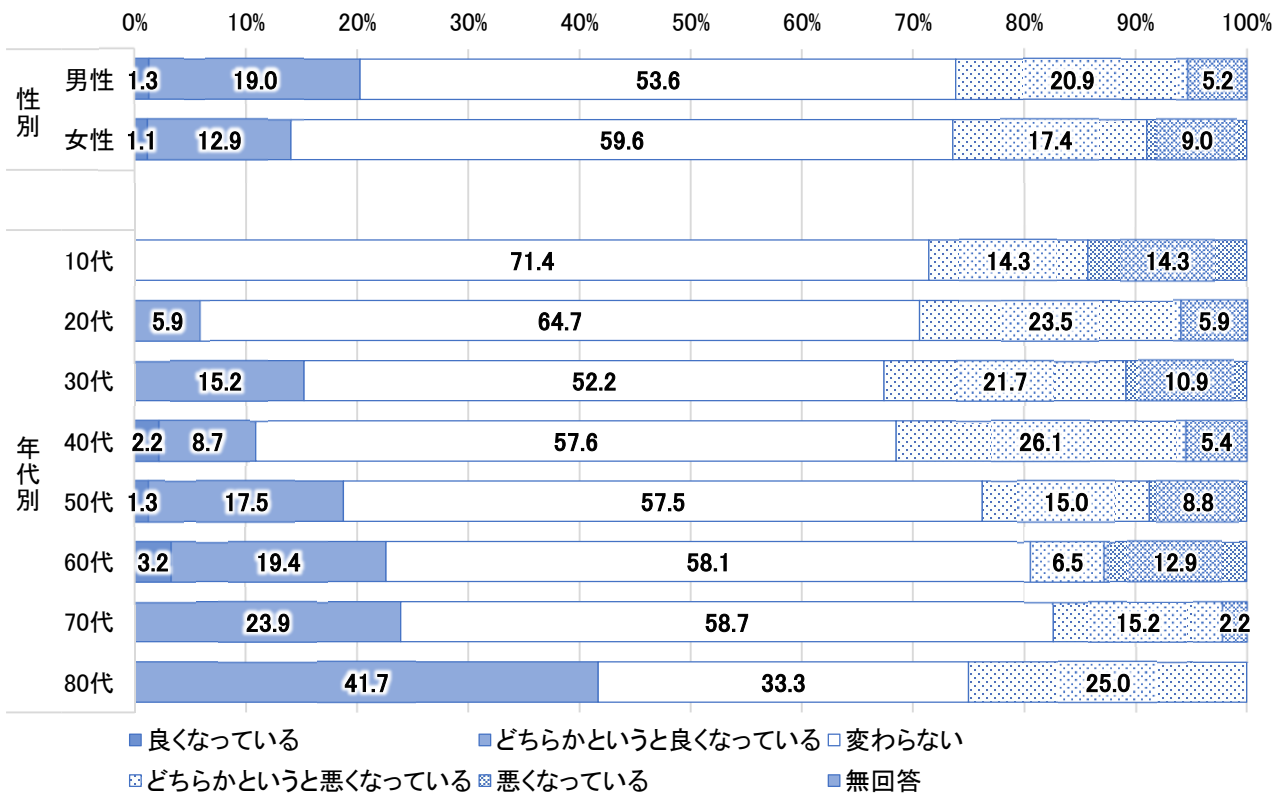
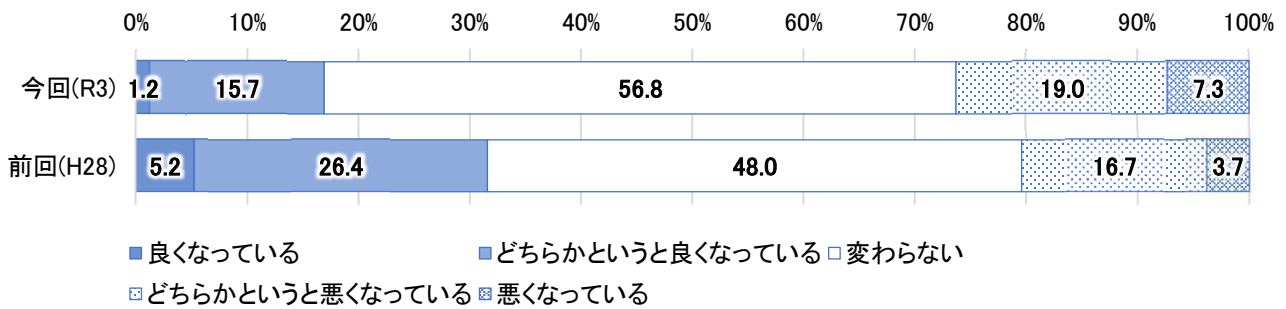
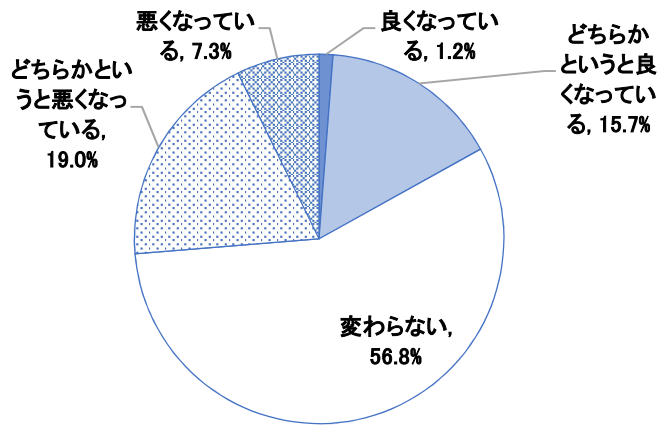


■良くなっている ■どちらかというと良くなっている □変わらない
 ▨どちらかというと悪くなっている ▩悪くなっている

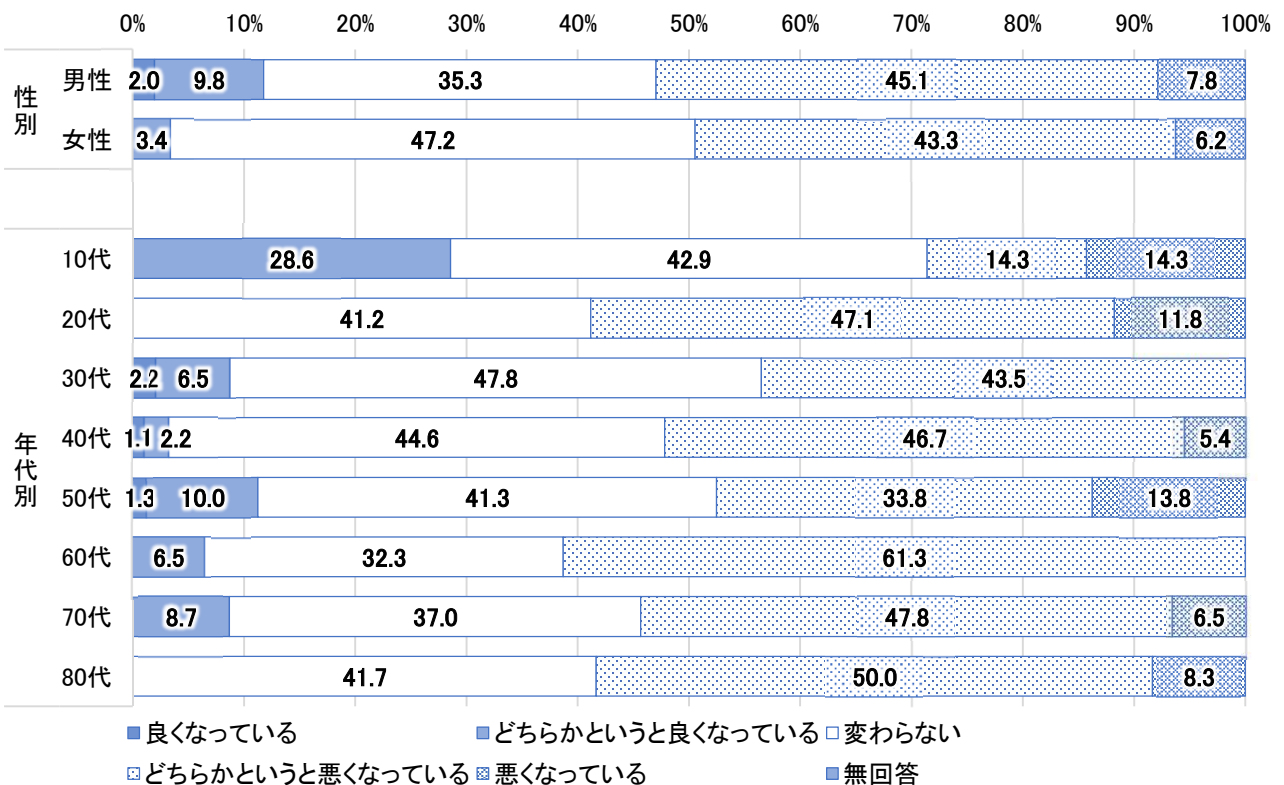
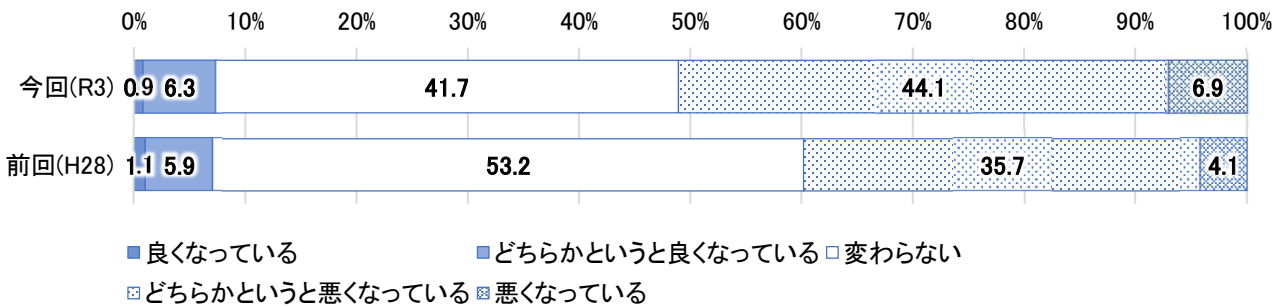
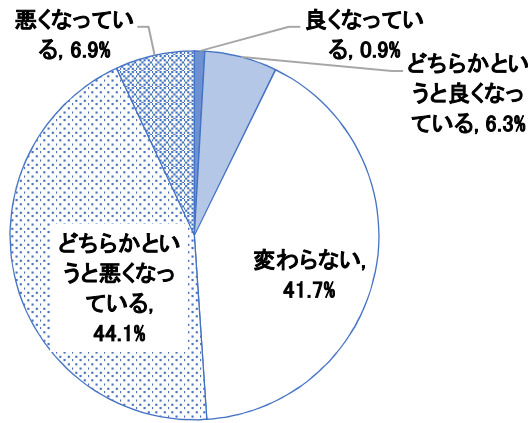


■良くなっている ■どちらかというと良くなっている □変わらない
 ▨どちらかというと悪くなっている ▩悪くなっている ■無回答

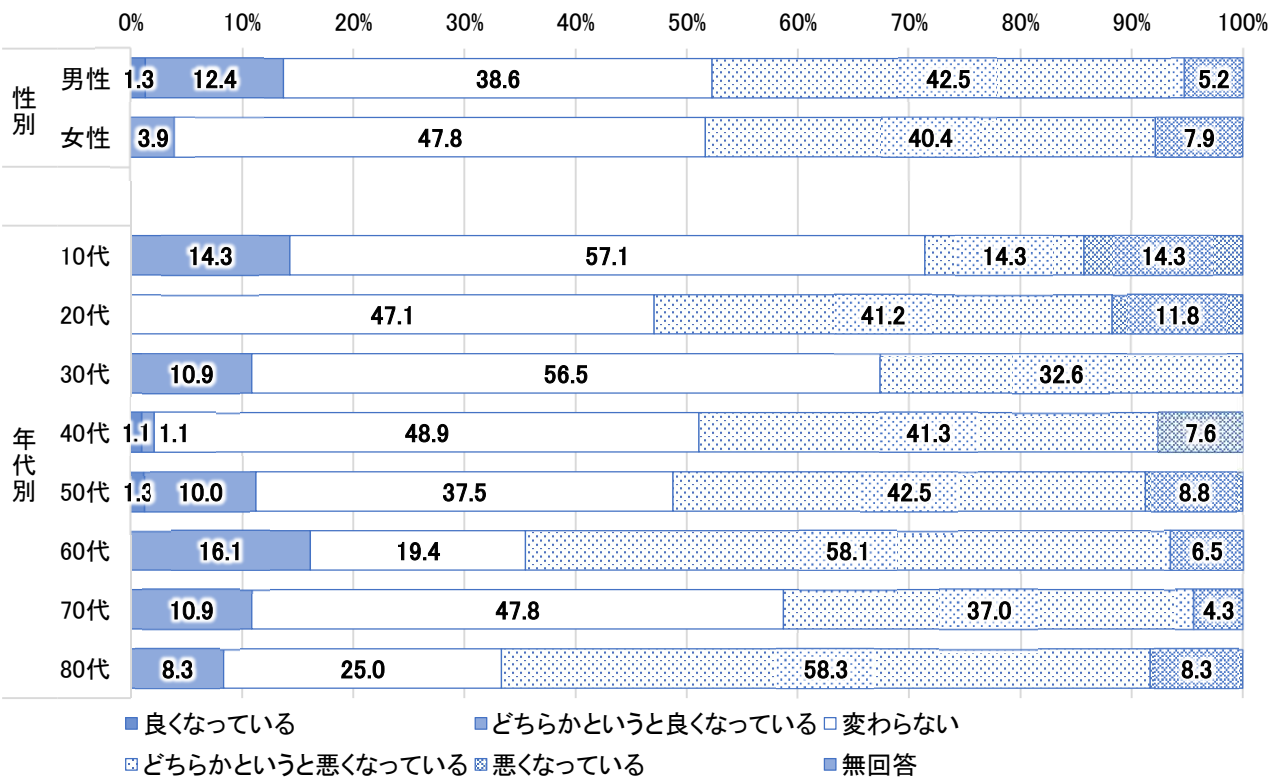
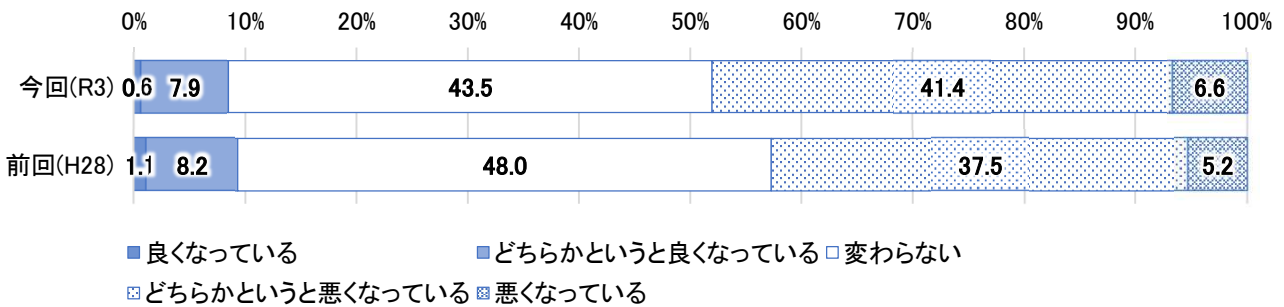
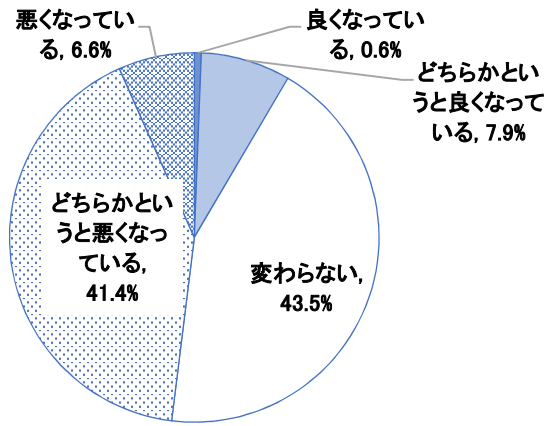
「変わらない」(46.5%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は43.5%で、前回調査と比べると6.3ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は10.0%で、前回調査と比べると4.1ポイント高くなっている。年代別では、20代が最も高い。



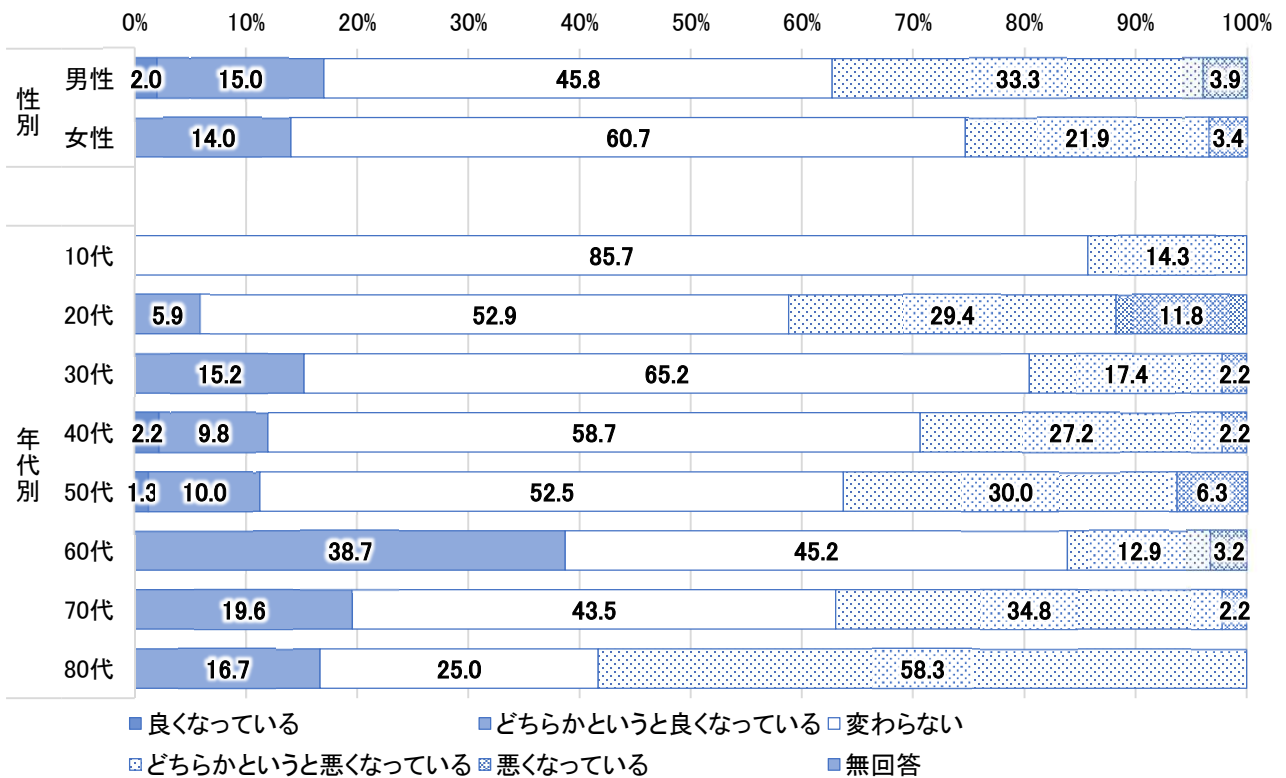
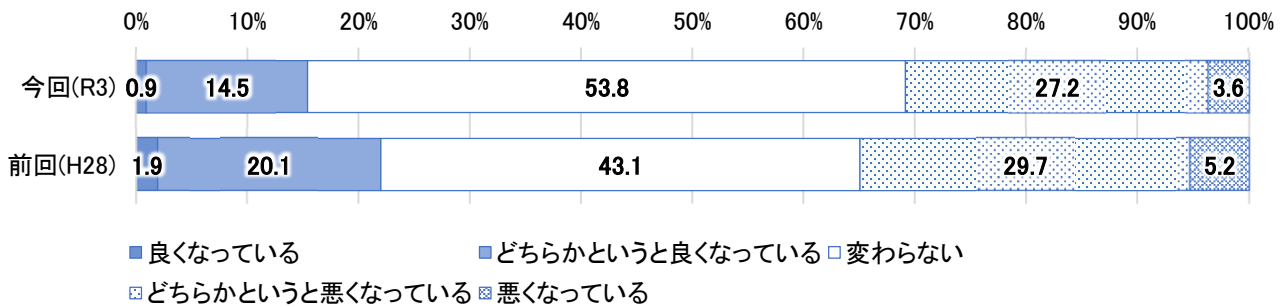
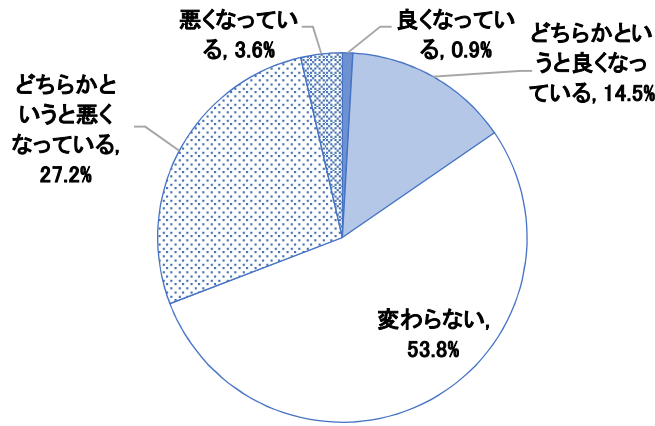
「変わらない」(56.8%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は16.9%で、前回調査と比べると14.7ポイント低くなっている。年代別では、80代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は26.3%で、前回調査と比べると5.9ポイント高くなっている。年代別では、30代が最も高い。



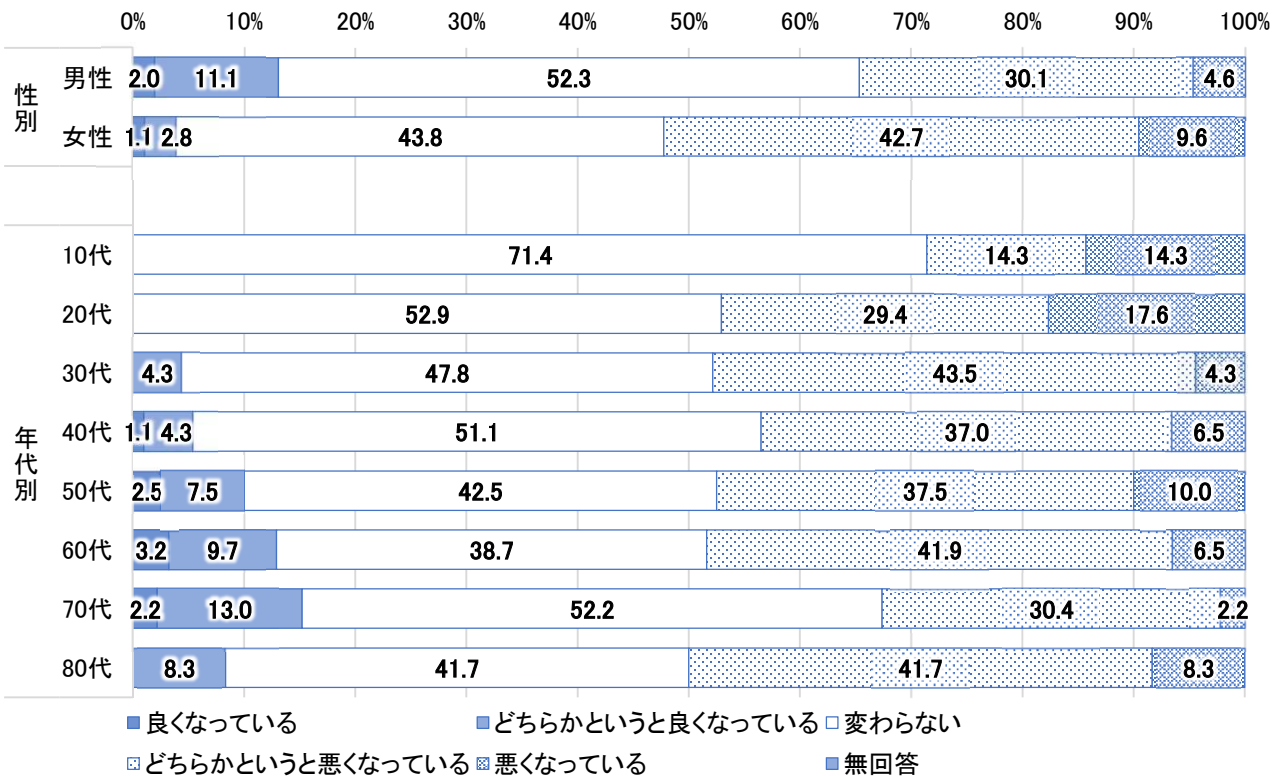
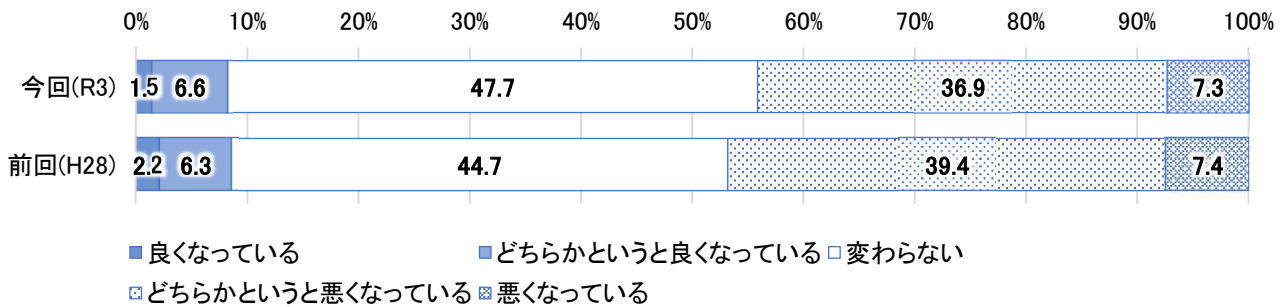
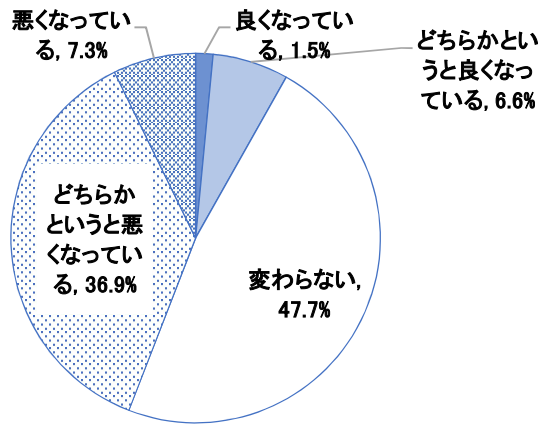
「どちらかというと悪くなっている」(44.1%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は7.2%で、前回調査と比べると0.2ポイント高くなっている。年代別では、10代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合51.0%は、前回調査と比べると11.2ポイント高くなっている。年代別では、60代が最も高い。



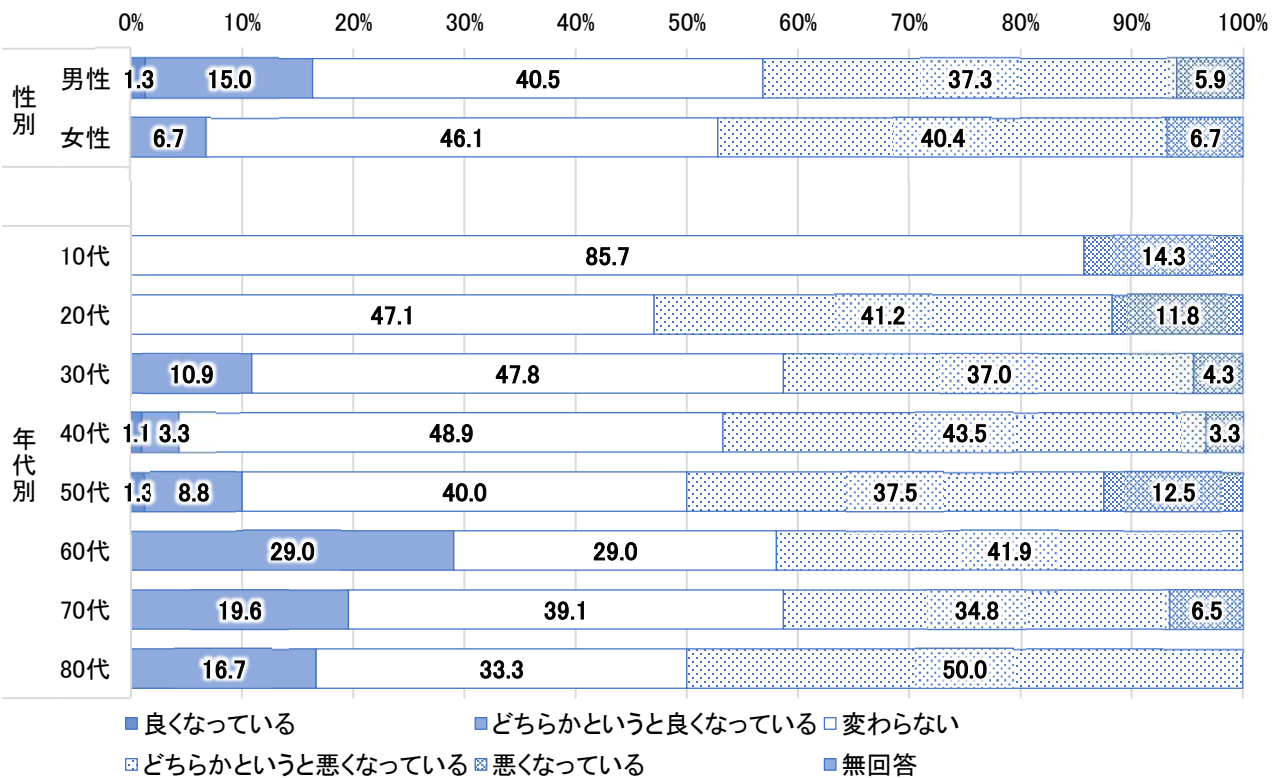
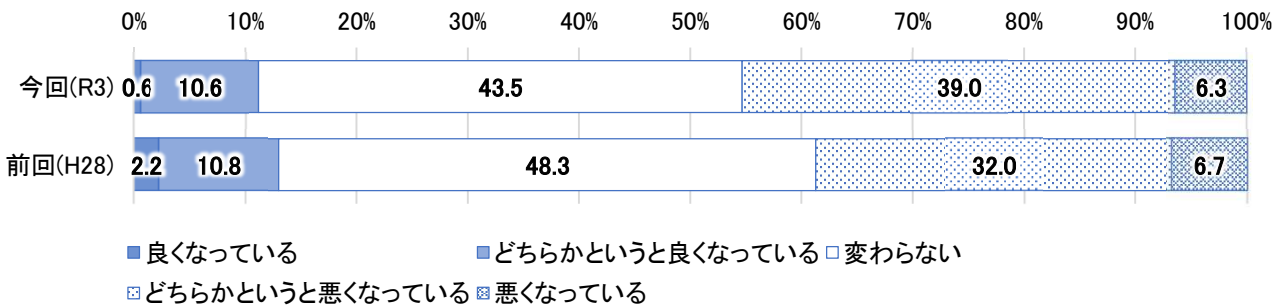
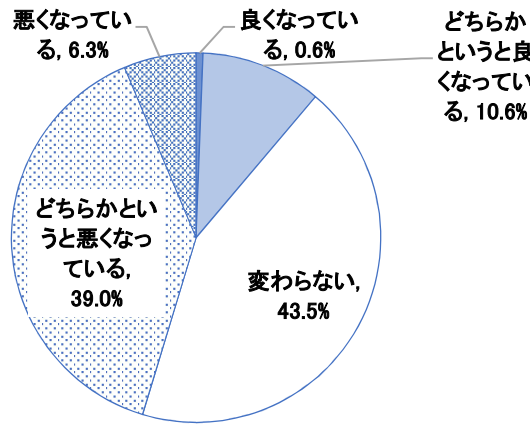
「変わらない」(43.5%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は8.5%で、前回調査と比べると0.8ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は48.0%で、前回調査と比べると5.3ポイント高くなっている。年代別では、80代が最も高い。



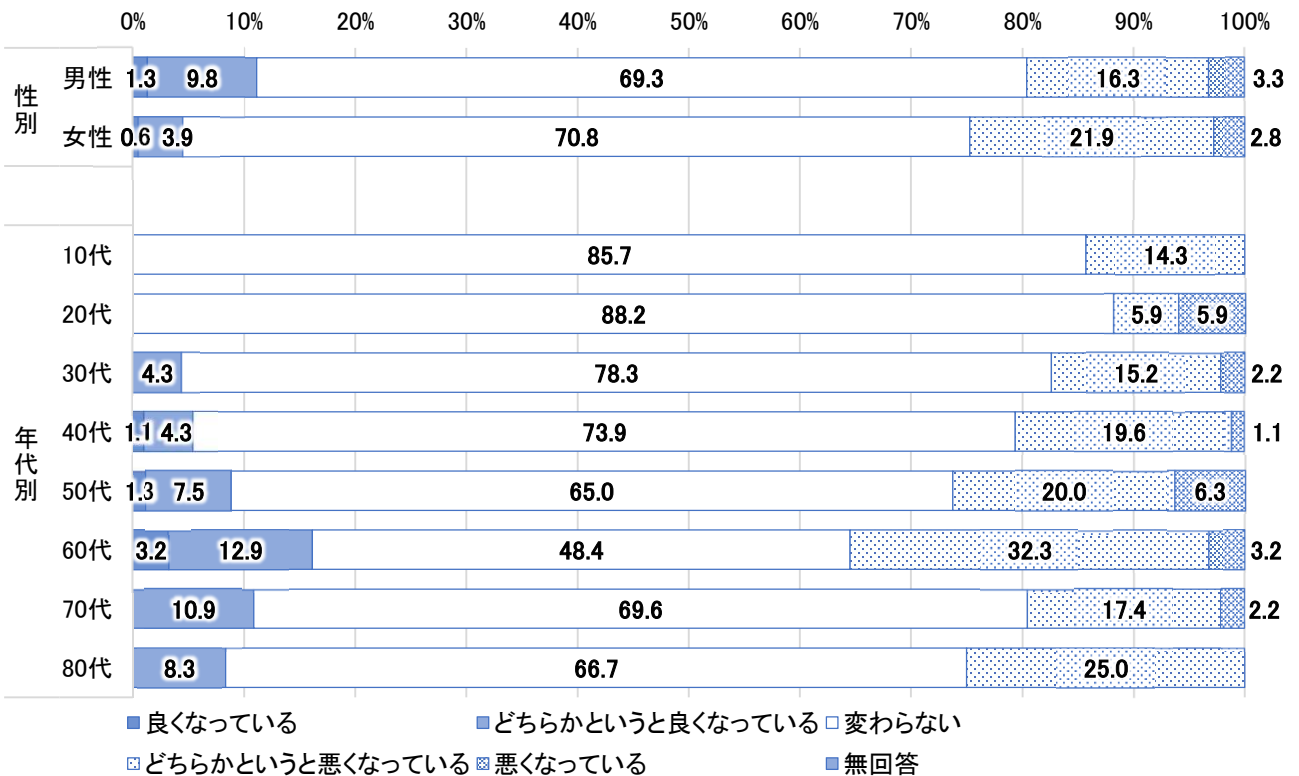
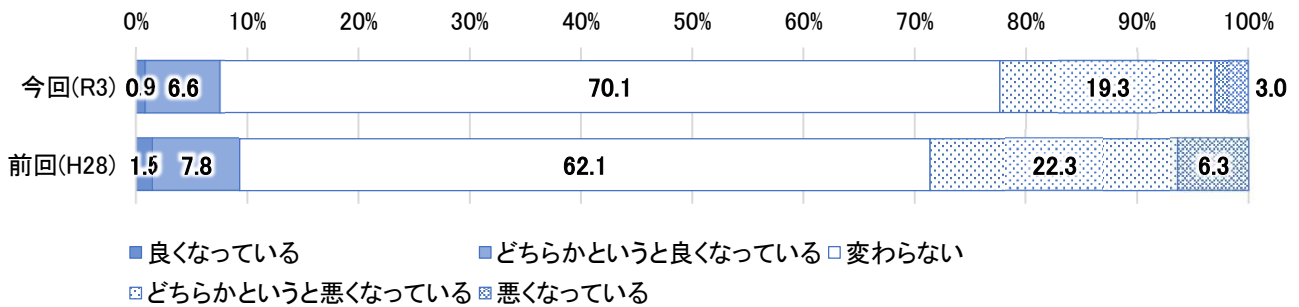
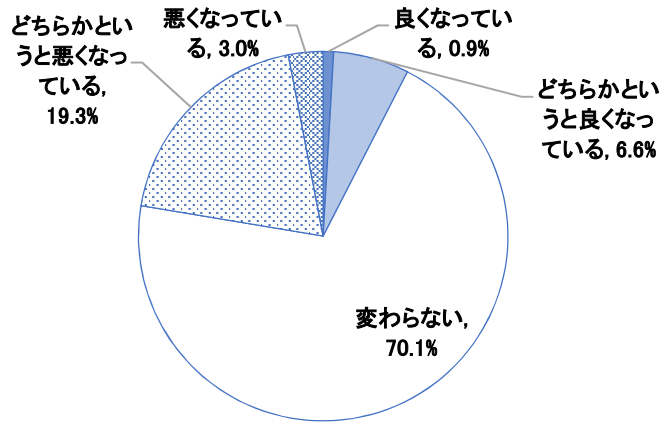
「変わらない」(53.8%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は15.4%で、前回調査と比べると6.6ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は30.8%で、前回調査と比べると4.1ポイント低くなっている。年代別では、80代が最も高い。



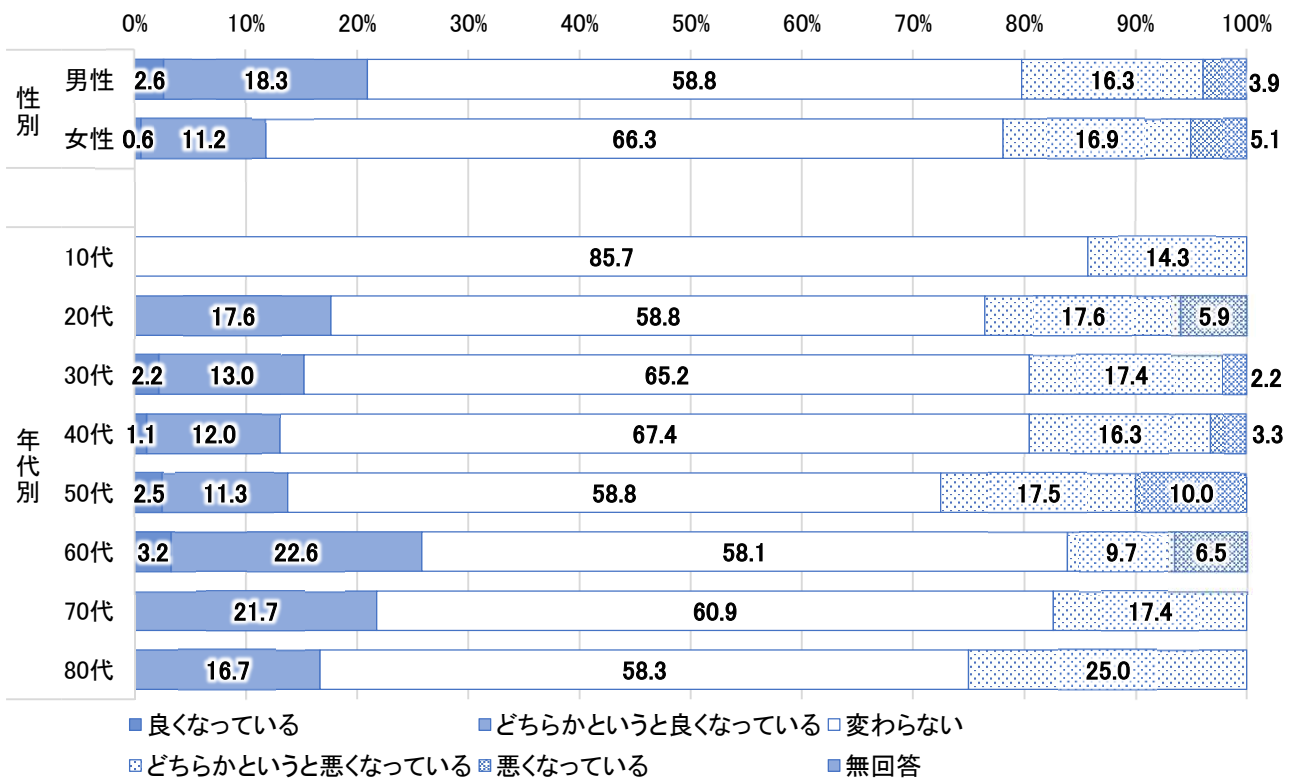
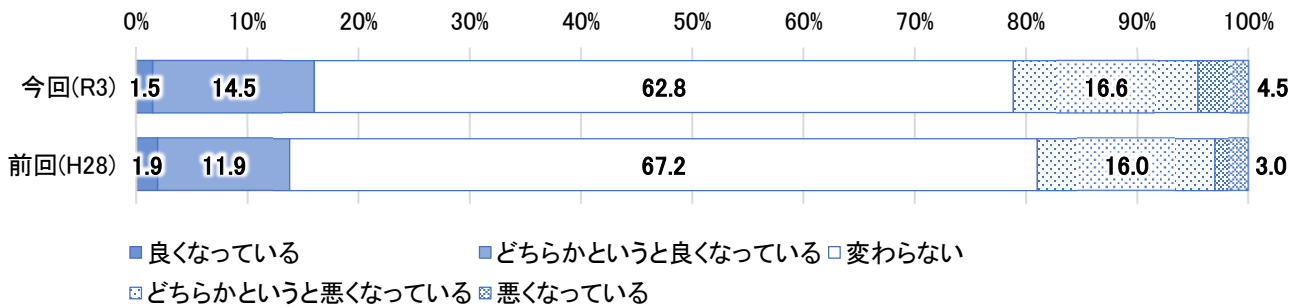
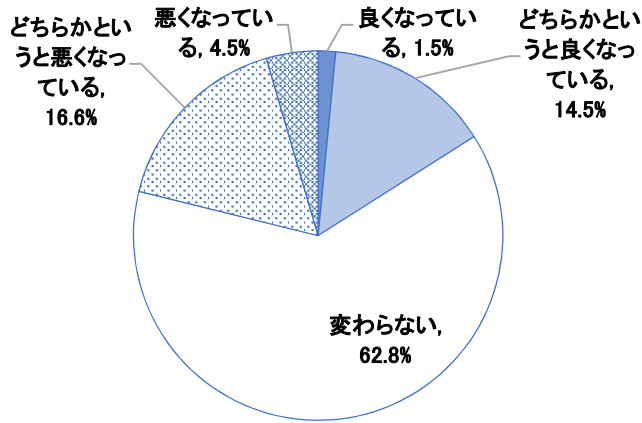
「変わらない」(47.7%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は8.1%で、前回調査と比べると0.4ポイント低くなっている。年代別では、70代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は44.2%で、前回調査と比べると2.6ポイント低くなっている。年代別では、80代が最も高い。



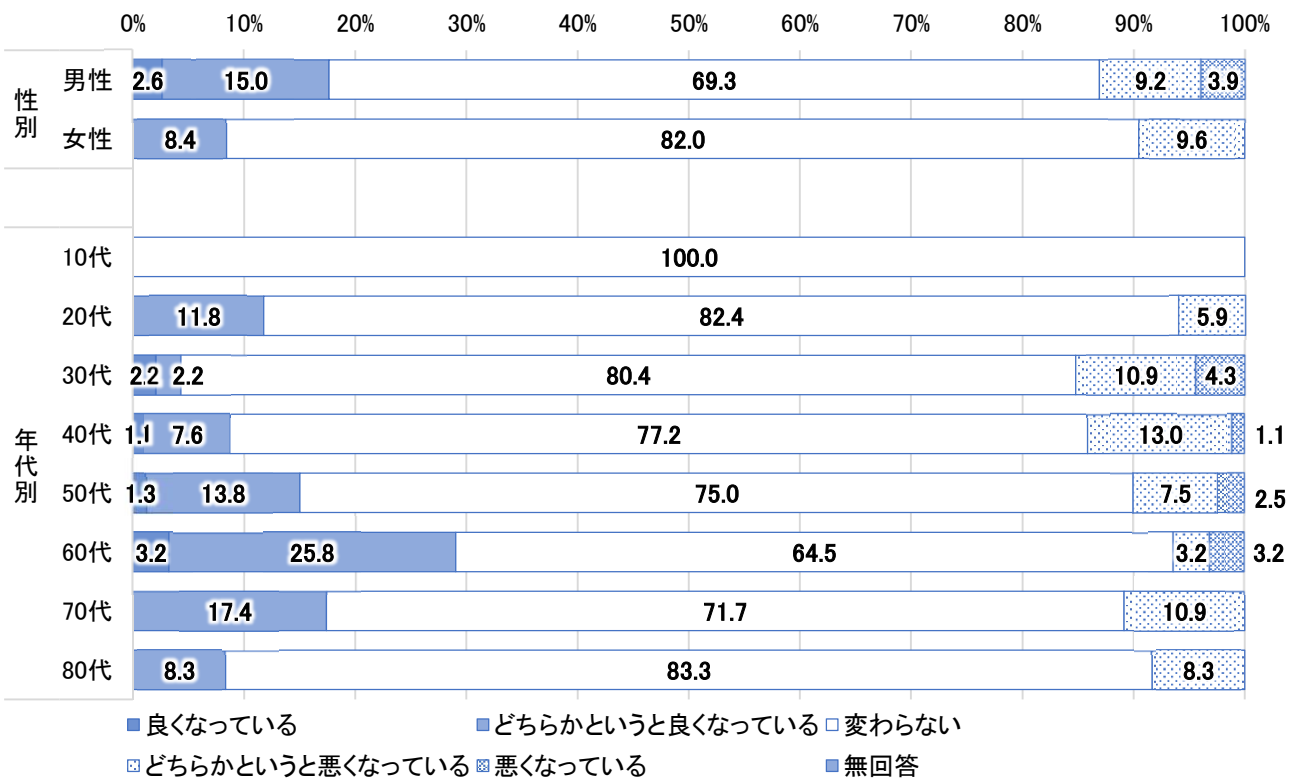
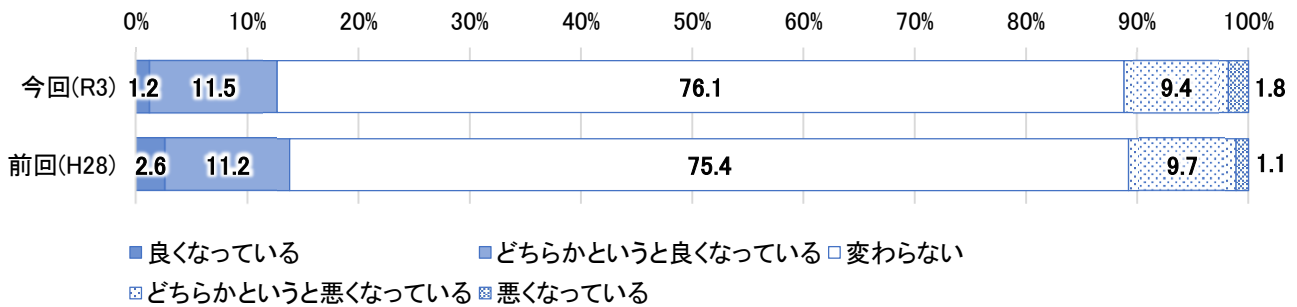
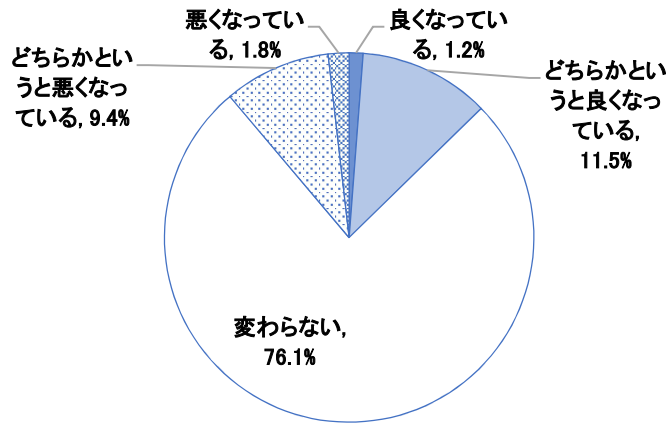
「変わらない」(43.5%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は11.2%で、前回調査と比べると1.8ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は45.3%で、前回調査と比べると6.6ポイント高くなっている。年代別では、20代が最も高い。



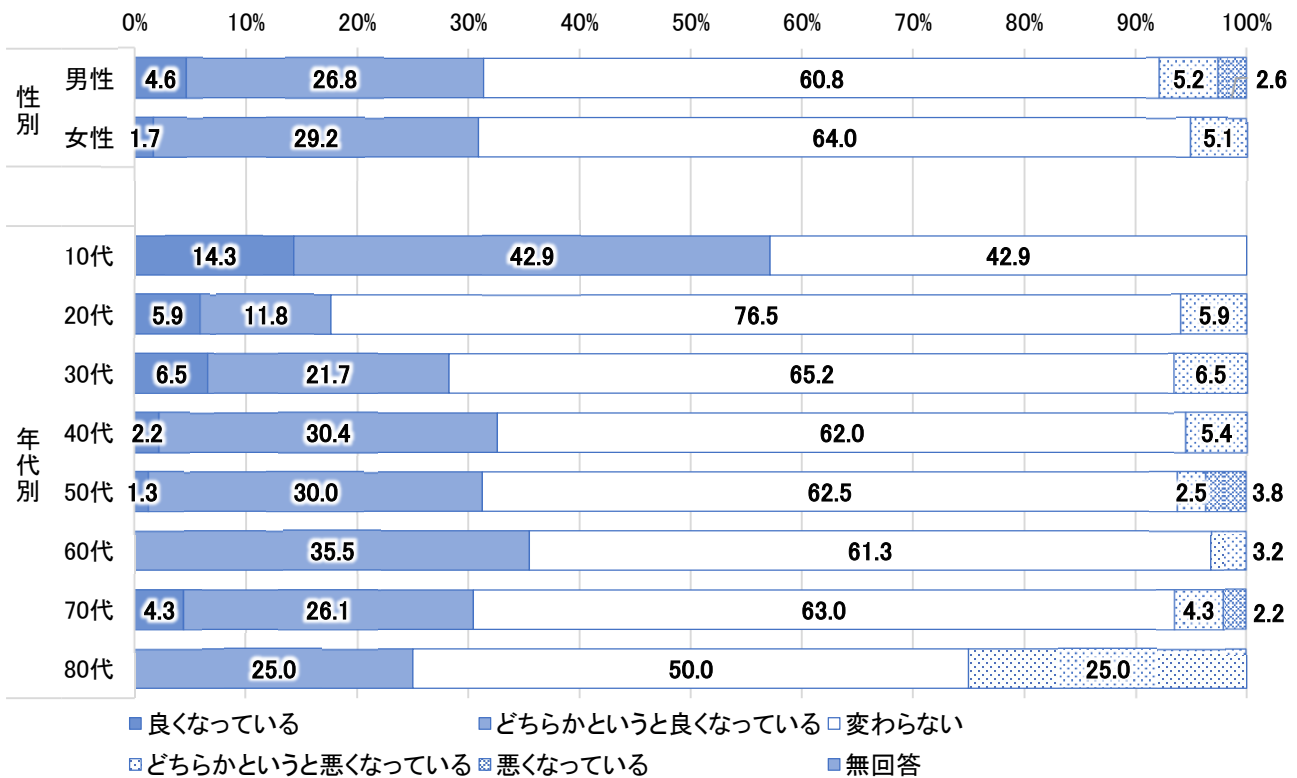
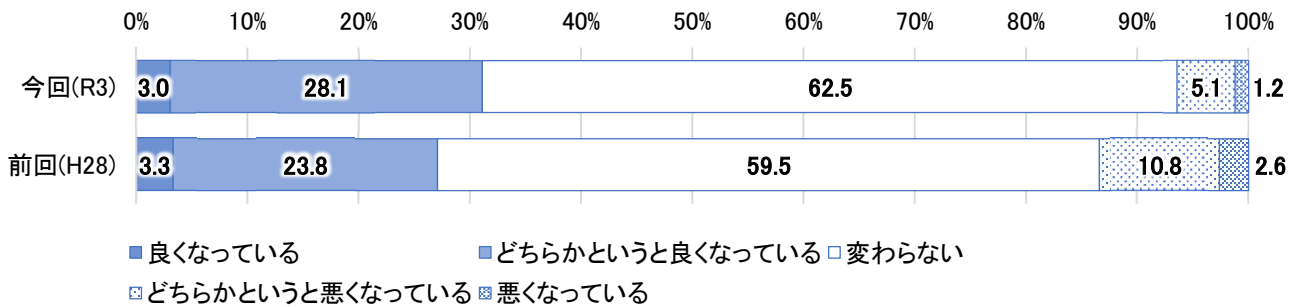
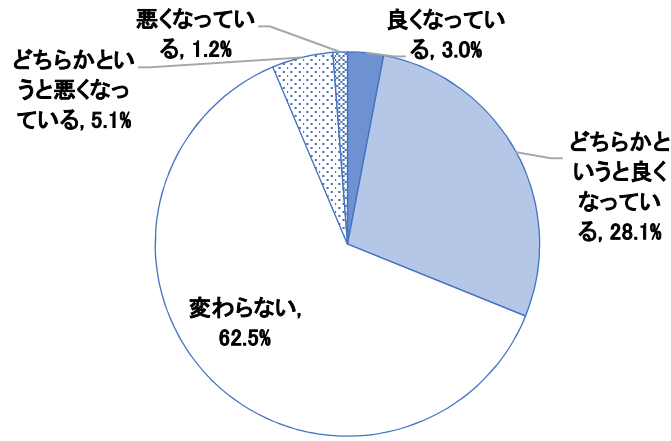
「変わらない」(70.1%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は7.5%で、前回調査と比べると1.8ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は22.3%で、前回調査と比べると6.3ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。



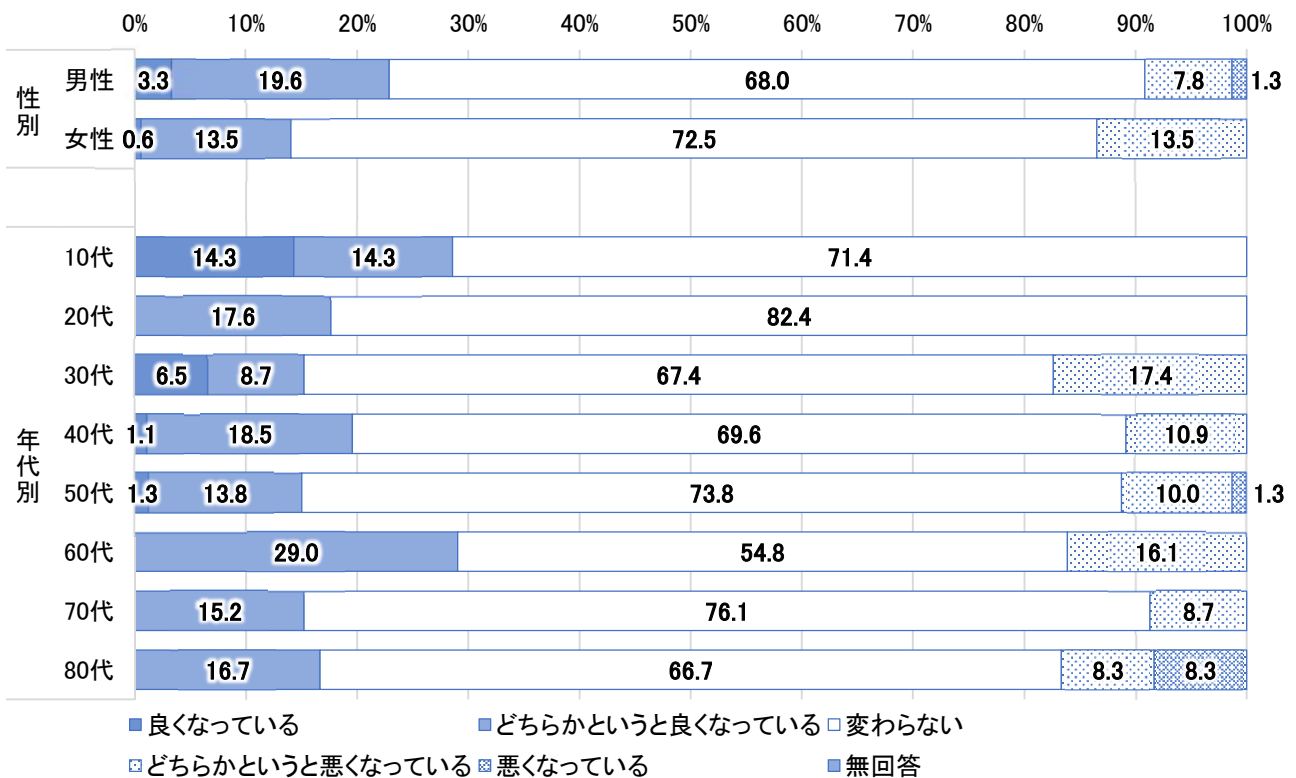
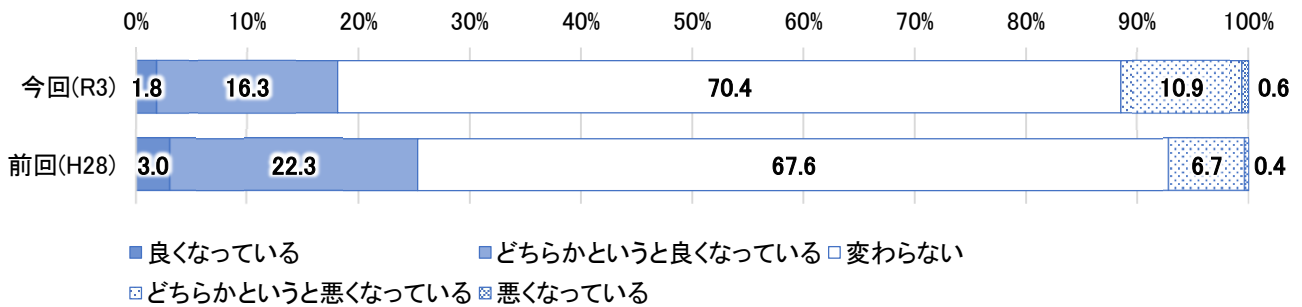
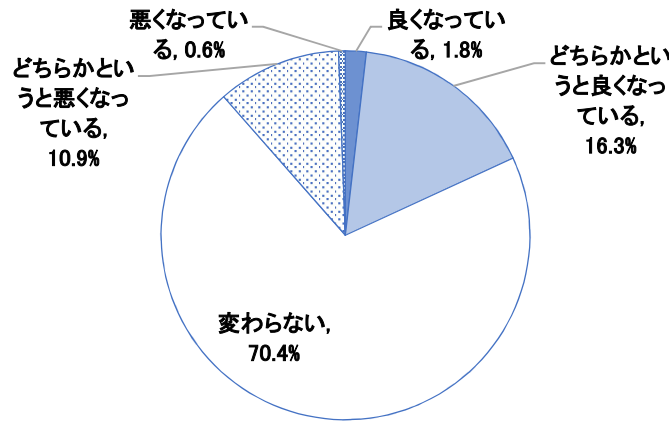
「変わらない」(62.8%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は16.0%で、前回調査と比べると2.2ポイント高くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は21.1%で、前回調査と比べると2.1ポイント高くなっている。年代別では、50代が最も高い。



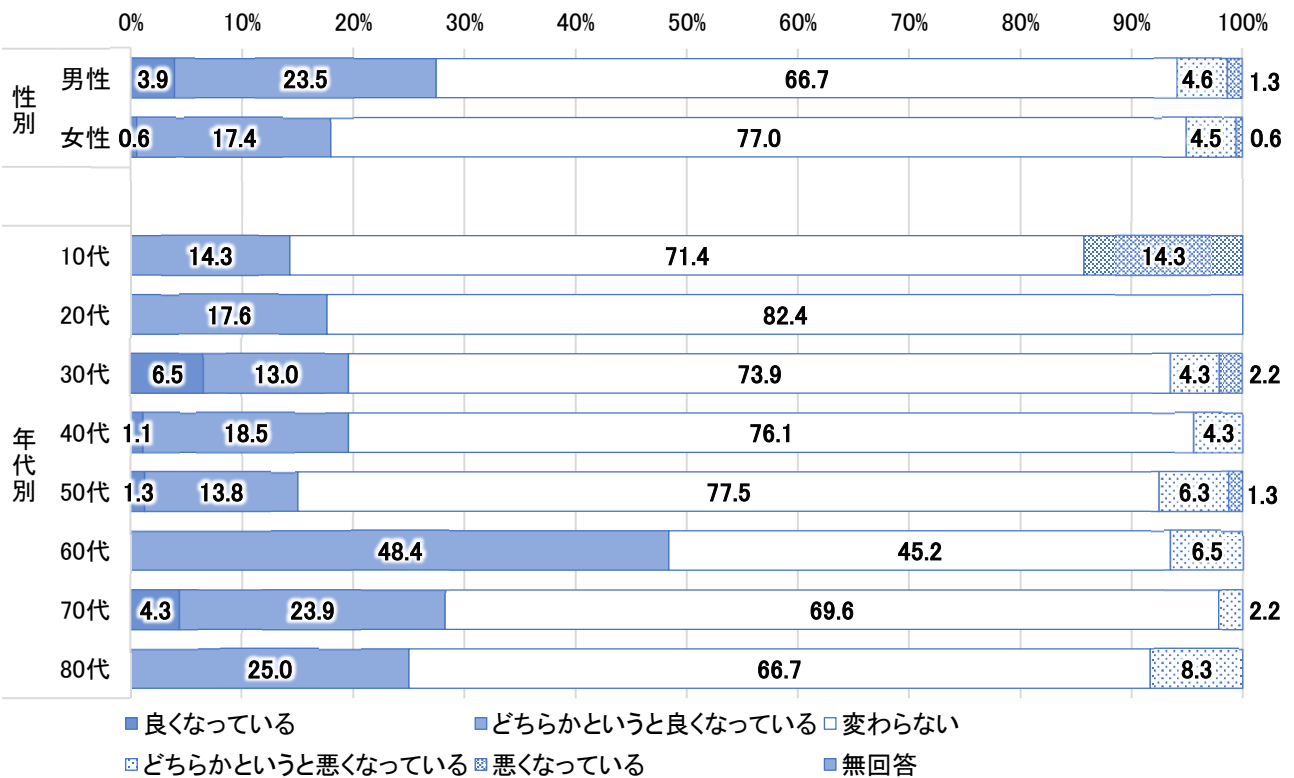
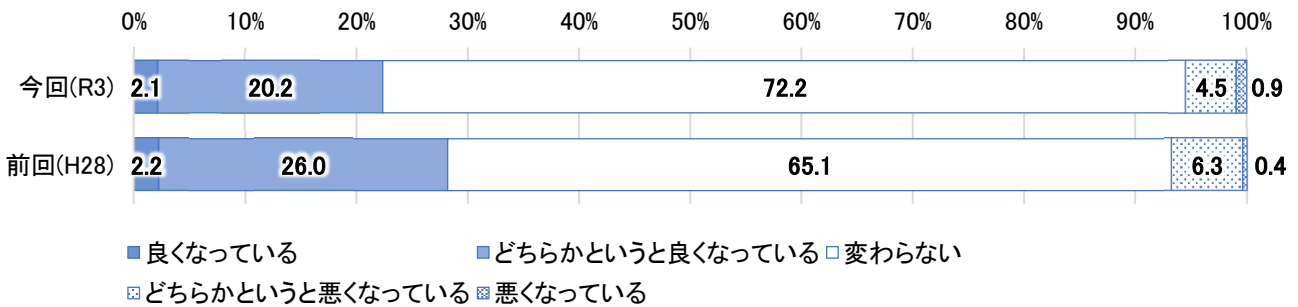
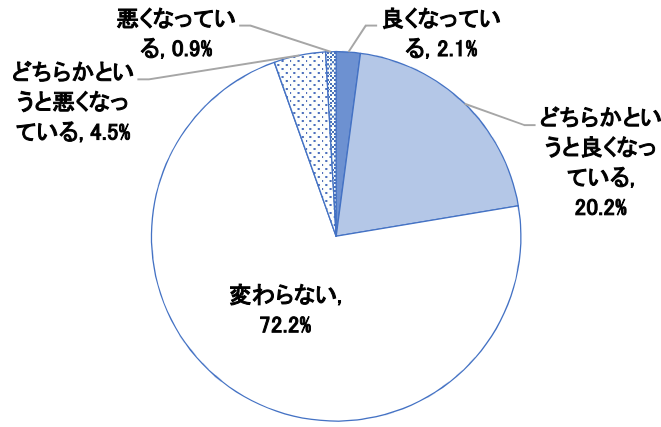
「変わらない」(76.1%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は12.7%で、前回調査と比べると1.1ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は11.2%で、前回調査と比べると0.4ポイント高くなっている。年代別では、30代が最も高い。



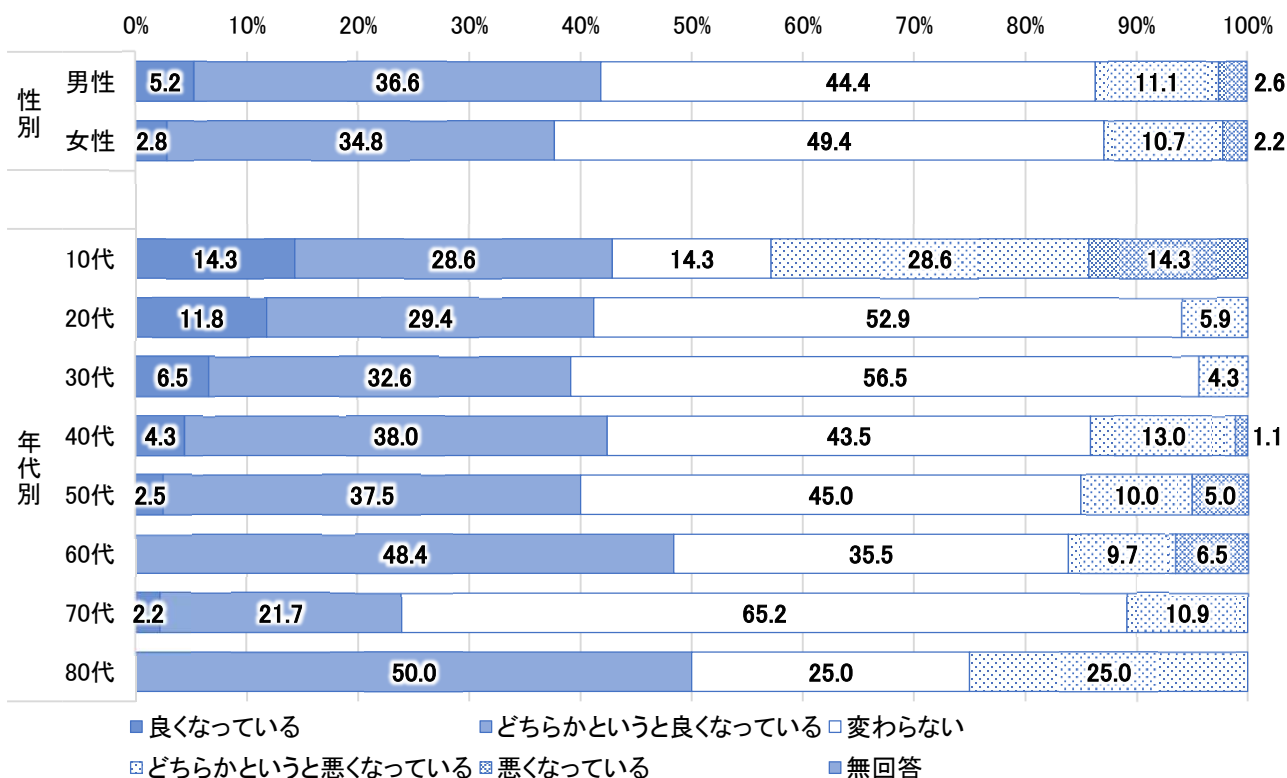
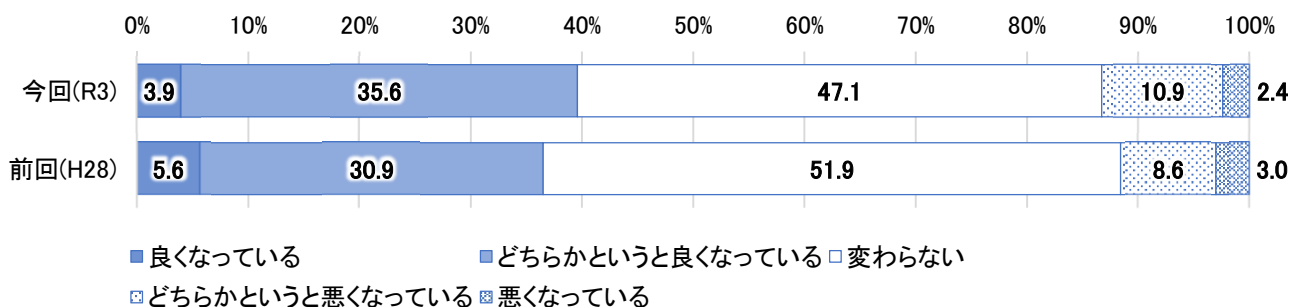
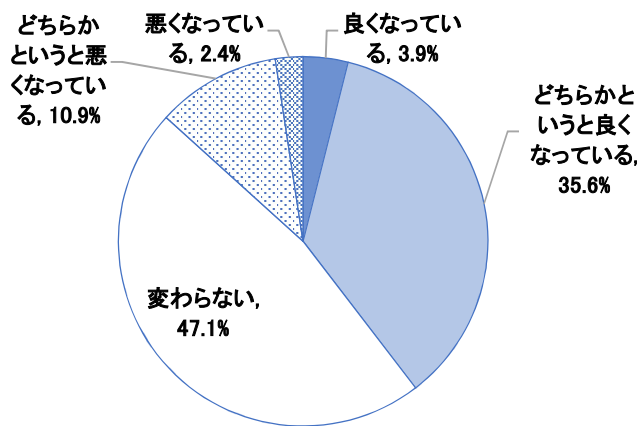
「変わらない」(62.5%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は31.1%で、前回調査と比べると4.0ポイント高くなっている。年代別では、10代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は6.3%で、前回調査と比べると7.1ポイント低くなっている。年代別では、80代が最も高い。



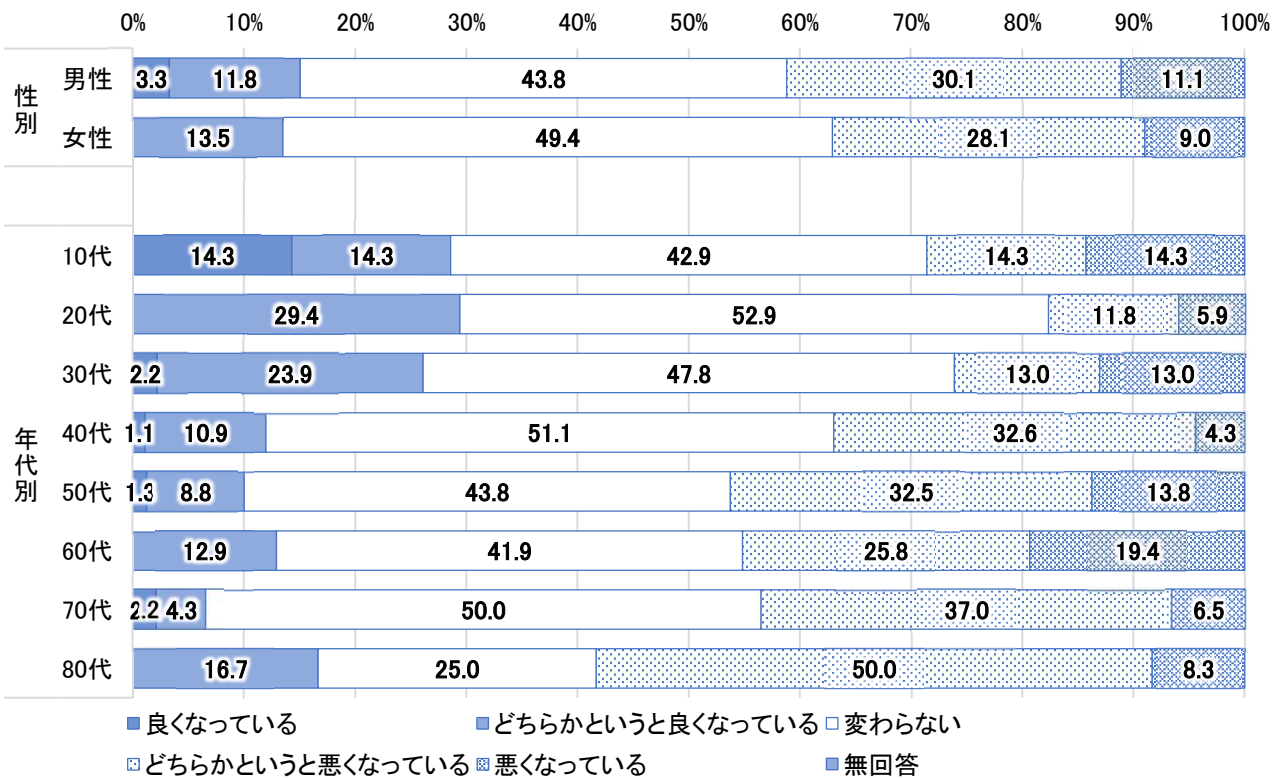
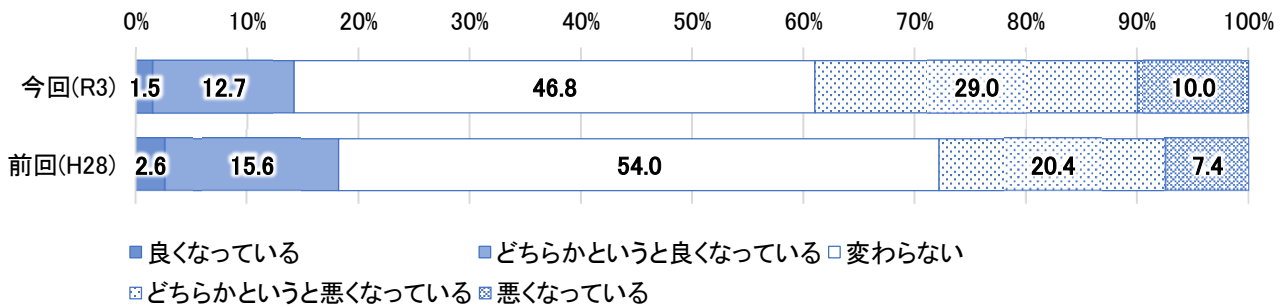
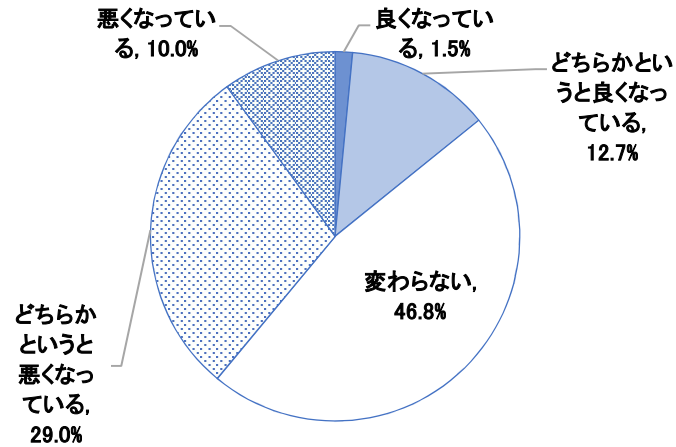
「変わらない」(70.4%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は18.1%で、前回調査と比べると7.2ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は11.5%で、前回調査と比べると4.4ポイント高くなっている。年代別では、30代が最も高い。



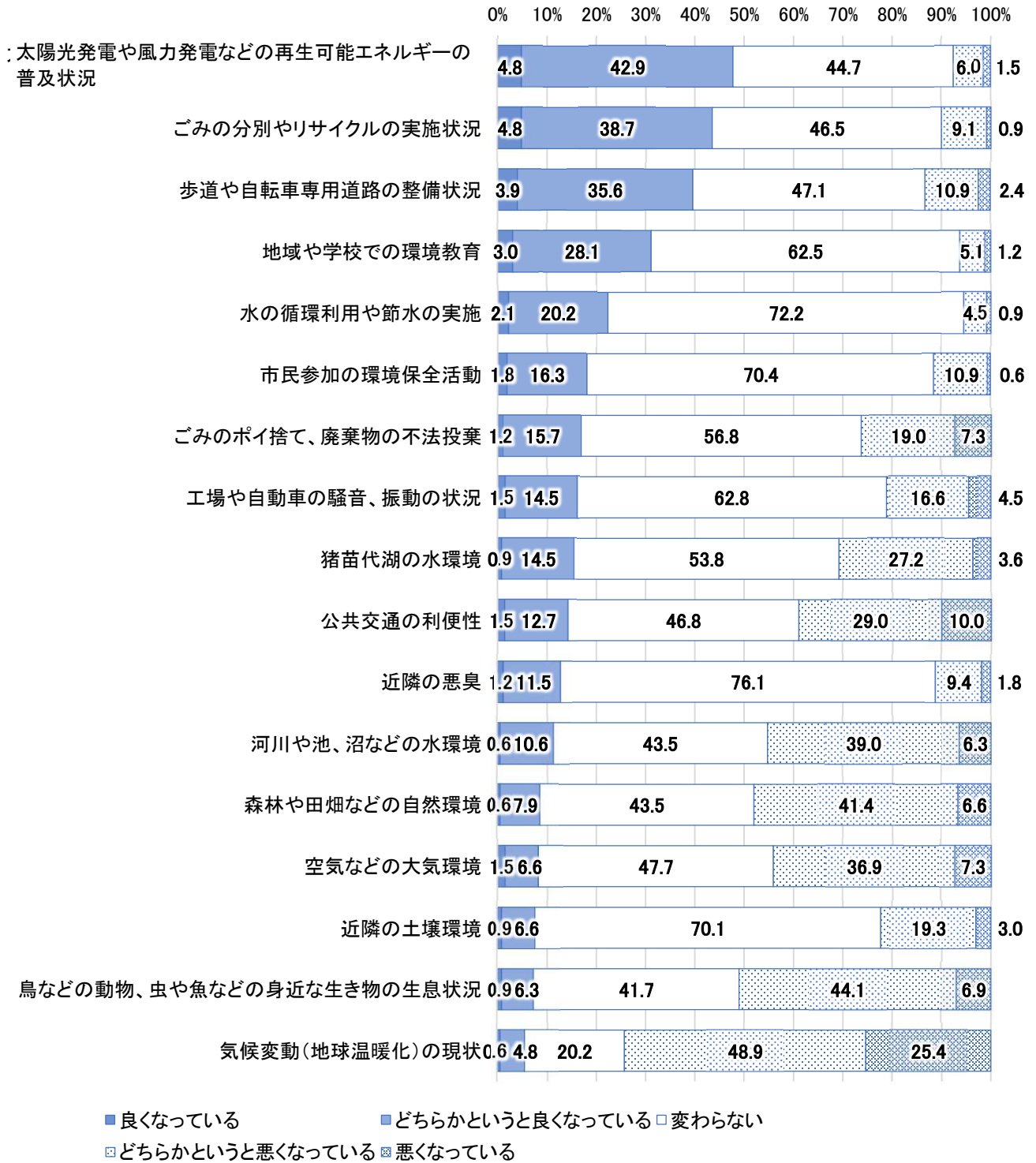
「変わらない」(72.2%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかという良くなっている」を合わせた割合は22.3%で、前回調査と比べると5.9ポイント低くなっている。年代別では、60代が最も高い。
 「どちらかという悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は5.4%で、前回調査と比べると1.3ポイント低くなっている。年代別では、10代が最も高い。



「変わらない」(47.1%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は39.5%で、前回調査と比べると3.0ポイント高くなっている。年代別では、80代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は13.3%で、前回調査と比べると1.7ポイント高くなっている。年代別では、10代が最も高い。



「変わらない」(46.8%)が最も高い。
 「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は14.2%で、前回調査と比べると4.0ポイント低くなっている。年代別では、20代が最も高い。
 「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は39.0%で、前回調査と比べると11.2ポイント高くなっている。年代別では、80代が最も高い。



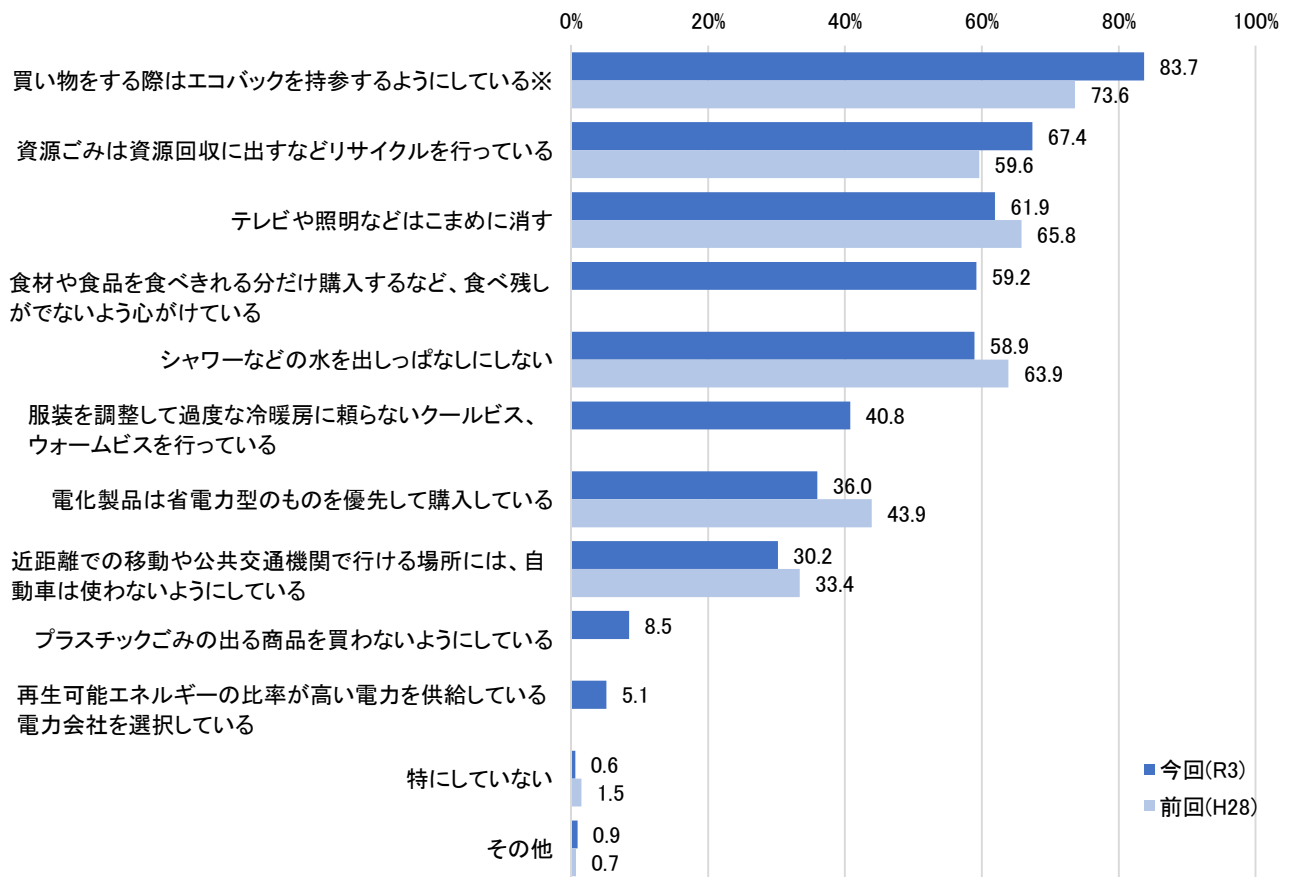
「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」を合わせた割合は、「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの普及状況について」(47.7%)、次いで「ごみの分別やリサイクルの実施状況について」(43.5%)、「歩道や自転車専用道路の整備状況について」(39.5%)の順で高くなっている。

「どちらかというと悪くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は、「気候変動(地球温暖化)の現状について」(74.3%)、「鳥などの動物、虫や魚などの身近な生き物の生息状況について」(51.0%)、「森林や田畑などの自然環境について」(48.0%)の順で高くなっている。

第3章 日常生活における環境への取り組みについて

問30 あなたが日常生活の中で環境に配慮している取り組みは何ですか？(複数回答可)

(回答者：331人)



※前回(H28)では、「過剰な包装は断ったり、買い物袋を持参するようにしている」

※「その他」を選択した方の主な意見

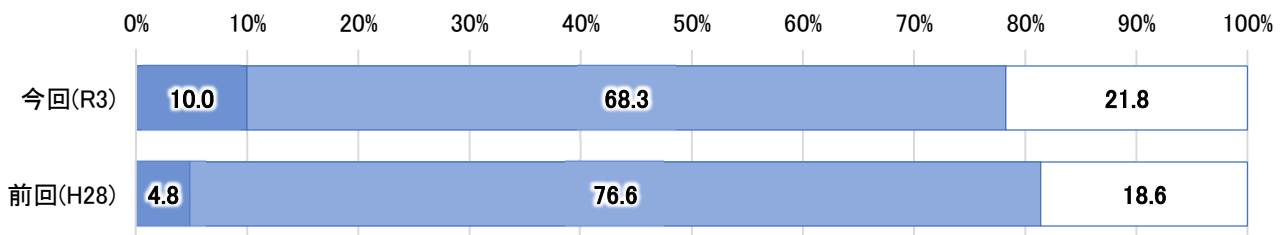
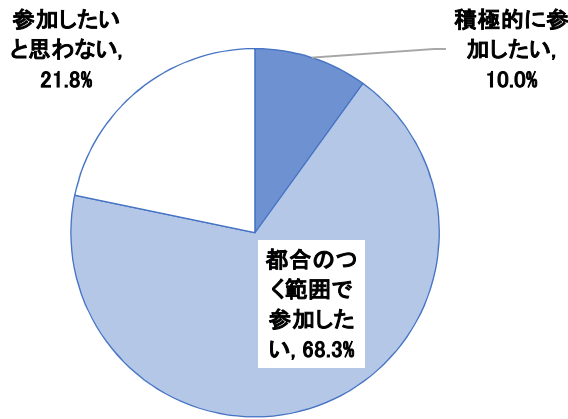
- ・環境負荷の少ない食品を選ぶようにしている。リサイクル品を購入する。
- ・生ごみポットを使用。

「買い物をする際はエコバックを持参するようにしている」(83.7%)、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」(67.4%)、「テレビや照明などはこまめに消す」(61.9%)の順に割合が高くなっている。

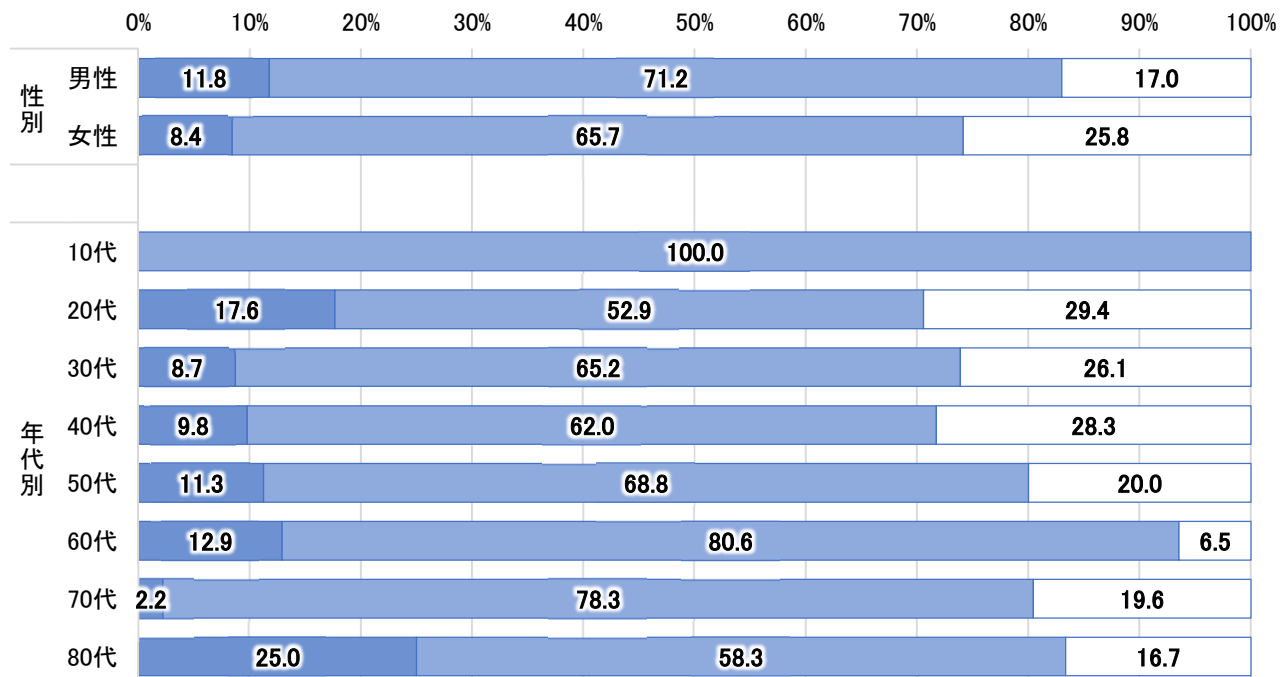
エコバッグ持参増加はレジ袋有料化、リサイクルの増加は民間事業者(小売店等)でのポイントが付与されるリサイクル設備の設置等が原因と考えられる。

問31 環境保全活動に参加したいと思いますか？(1つ選択)

(回答者：331人)



■ 積極的に参加したい ■ 都合のつく範囲で参加したい □ 参加したいと思わない



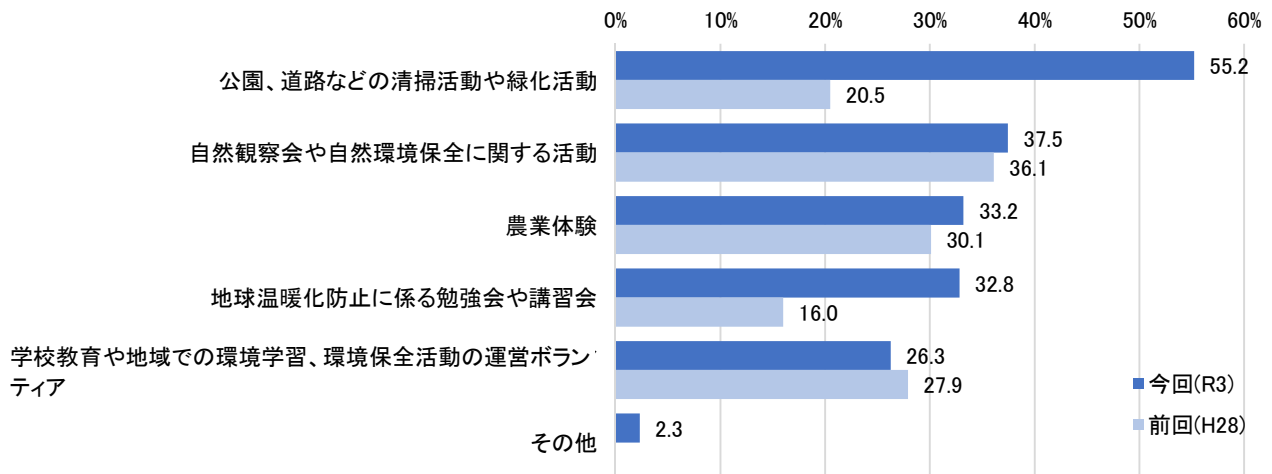
■ 積極的に参加したい ■ 都合のつく範囲で参加したい □ 参加したいと思わない □ 無回答

「積極的に参加したい」と「都合のつく範囲で参加したい」を合わせた割合は78.3%となっている。前回調査と比べると3.1ポイント低くなっているが、「積極的に参加したい」の割合は5.2ポイント高くなっている。年代別では10代が最も高く、他の年代と比べて20代から40代は低い。

「参加したいと思わない」(21.8%)は、前回調査と比べると3.2ポイント高くなっている。年代別では20代から40代が高く、60代で低くなっている。

問32 前問で「積極的に参加したい」及び「都合のつく範囲で参加したい」を選択した方に伺います。参加したい環境保全活動は何ですか？(複数回答可)

(回答者:259人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・環境に良い企業の表彰活動の選定など
- ・普段の生活の中で環境保全を意識した活動
- ・ゴミを埋め立てる場所は有限で大量生産、消費を続けていては子供たちに未来はないことの周知

「公園、道路などの清掃活動や緑化活動」(55.2%)が最も高い。

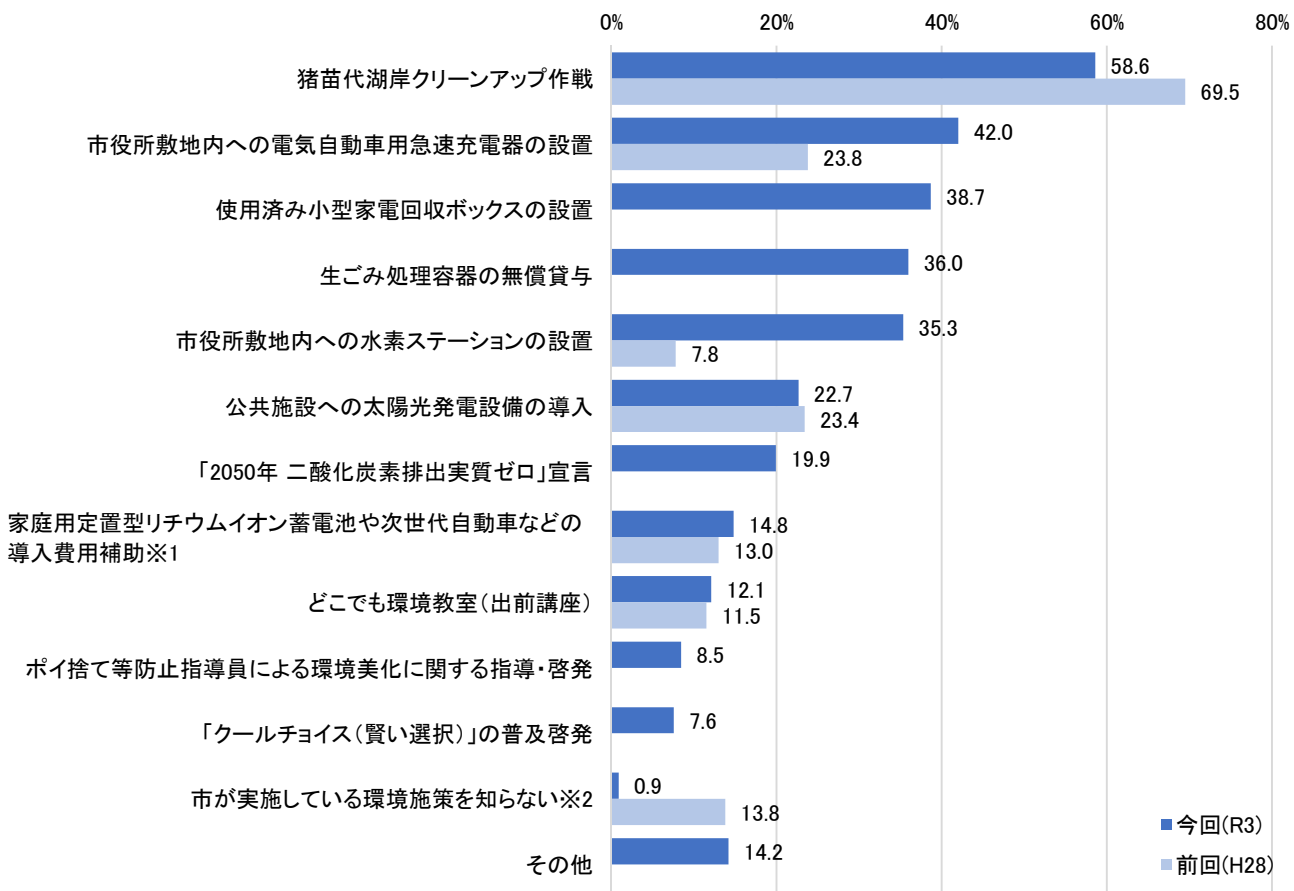
前回調査では上位3項目にも入っておらず、34.7ポイントの大幅な増加になっている。次いで前回調査でも上位3項目にあげられていた「自然観察会や自然環境保全に関する活動」(37.5%)、「農業体験」(33.2%)の順に高くなっている。

前回調査で3番目に割合が高かった「学校教育や地域での環境学習、環境保全活動の運営ボランティア」(26.3%)は、1.6ポイントのマイナスとなっている。

第4章 郡山市の環境に関する取組について

問33 郡山市の環境施策について、知っている取り組みを選んでください(複数回答可)

(回答者：331人)



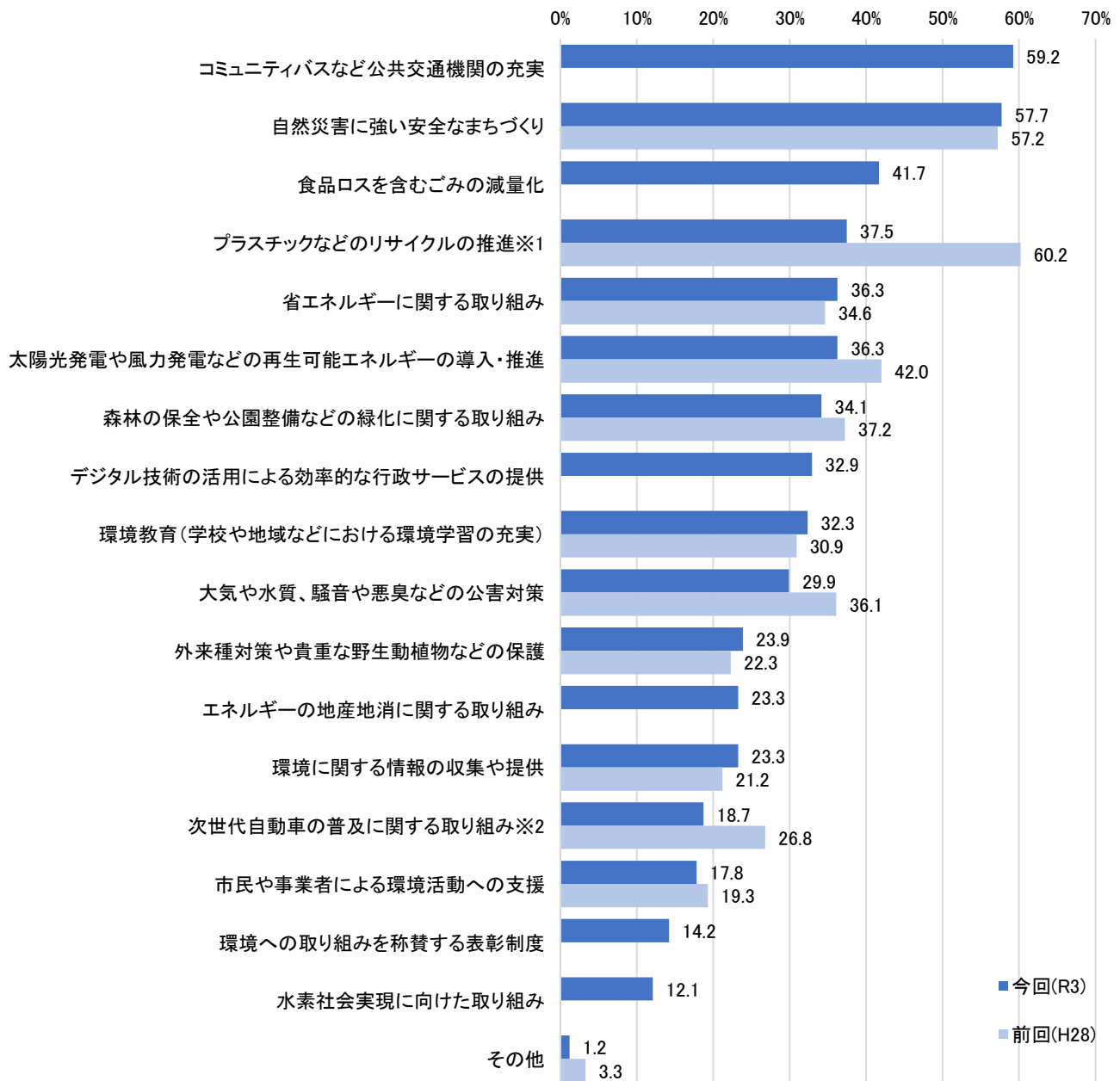
※1前回(H28)では、「家庭用定置型リチウムイオン蓄電池や地中熱利用ヒートポンプシステムなどの設置費用補助」

※2前回(H28)では、「特になし」

「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」(58.6%)が最も高いが、前回調査に比べると10.9ポイント低くなっている。次いで「市役所敷地内への電気自動車用急速充電器の設置」(42.0%)、「使用済み小型家電回収ボックスの設置」(38.7%)の順に高くなっている。

問34 より良い環境づくりを進めるために、郡山市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか？(複数選択可)

(回答者:331人)



※1前回(H28)では、「ごみの減量やリサイクルの推進」

※2前回(H28)では、「低公害車の普及に関する取り組み」

※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ゴミを減らす。
- ・小学生からの教育。
- ・太陽光パネルや電気自動車の購入に係る給付金の充実化。

「コミュニティバスなど公共交通機関の充実」(59.2%)、「自然災害に強い安全なまちづくり」(57.7%)、「食品ロスを含むごみの減量化」(41.7%)が上位3項目となっている。このうち前回調査にもあった「自然災害に強い安全なまちづくり」は0.5ポイント高くなっている。

また前回調査では「ごみの減量やリサイクルの推進」(60.2%)が最も高かったが、今回調査で類似する「プラスチックなどのリサイクルの推進」(37.5%)は、22.7ポイント低くなっている。

コミュニティバスの導入は、環境負荷を低減させるばかりではなく、高齢化が進む中で自身で運転しない市民が増加することが推測され、交通部局と連携した取り組みが必要である。また、近年は数年に一度の割合で豪雨による災害が発生しており、自然災害に強い安全なまちづくりが求められていると考えられる。

問35 その他、郡山市の環境に関する施策や身近な環境問題に対するご意見等、ご自由にお書きください。(自由記述)

ごみ対策に関する主な意見

テレビで道路のごみ拾いを放送しているが、前に清掃したところにまたごみが捨ててある。個人のマナーに頼るしかない現状を嘆く。(男性・70代)

ゴミ回収が無料なのは家計的にはありがたいですが、有料の方が市民1人1人が本気でゴミの減量に取り組むと思います。(女性・30代)

ゴミの正しい出し方をわかりやすく説明して、リサイクルを一考した方が良いと思います。最近テイクアウトで食品を購入することが増えてゴミも多く出ます。スーパーのパッケージもプラスチック製品が多いので、企業も一緒に取り組む課題だと思います。(女性・50代)

私の出来る身近な環境活動は、出すゴミを少なくすることだと思っています。生ゴミは、生ごみ処理容器に入れてゴミとしては出していませんし、プラスチックはリサイクルに出しています。大きな事よりも小さな事が大切だと思います。(男性・60代)

身近な歩道などでもジュースの空容器やタバコの吸い殻があったり、施設の駐車場で弁当ゴミや菓子の袋が捨ててあるなど、ポイ捨て問題について個人個人の意識がまだ低いと思います。また、幹線道路沿いのゴミも、明らかに車から捨てていると思われるものがあり、景観を損ね環境にも悪影響を及ぼしているように思います。汚いと捨てやすくなる悪循環が出ると考えますので、個人の意識向上への働きかけと、清掃での美化により捨てにくい環境を作るなど、併せた取り組みが必要だと感じました。(男性・30代)

環境に関する情報の収集や提供に関する主な意見

環境問題は多岐にわたるので、市が実施している或いは実施しようとしていることをもっと積極的にPRしてはどうか。(男性・70代)

実は身近な事なのだけれども、普段はあまり意識していない方も多いと思うので、まずは啓発活動にも力点を置くのが良いのかなと思います。(男性・40代)

活動に参加して広めたいほどの想いはなくても、知り・学ぶことで自分の周りだけでも丁寧になりたい気持ちがあります。不安を煽るのもよくないですが、環境の危機があるなら危なさを正しく伝えて欲しいです。何が原因なのか、どんな対応ができるのかも。(女性・20代)

環境に関する事は市民全員で行う事が重要だと考えます。市で取り組んでいる事の啓蒙活動の積極的展開を期待します。(男性・50代)

自分でできる最低限のエコは実践しています。限りある資源の大切さを日ごろから学べる機会があると良いと思います。(女性・50代)

市(行政)に対する要望、意見など

洪水の被害を恐れて市民を川から遠ざける工事ばかりしている。逆に川と親しむ視点も必要だと思う。(男性・50代)

「郡山市＝音楽都市」のように「郡山市＝環境取り組み都市」のイメージができる施策が必要。(男性・60代)

郡山東部、阿武隈川周辺の水害被害防止に取り組んでもらいたい。(男性・80代)

その他

自転車専用レーンの設置が増えているが、それをちゃんと利用しない市民が多い。そもそも、街中では配送業などのトラックが専用レーンをふさぎ、自転車の運転に危険が伴う。（男性・40代）

猪苗代湖の水質改善の取り組みは、猪苗代町、会津若松市と協力して日本一の水質になるようにしてほしい。郡山市の飲み水なのだから。

30年以上前の子供のころ、猪苗代湖の水は湖岸でも山のせせらぎの流水のように水のいい香りがしていた。その時でさえ、親の子供の頃はもっときれいだったと教えられた。今は湖水浴をためらうほど臭いと思う。（男性・40代）

再生可能エネルギー設置の為に環境破壊するのは本末転倒。森林も間伐などで適切な維持管理をしながら、木材の活用もしないと環境保全とは言えない。（女性・30代）

環境と言うのは簡単だが範囲が広いので、一つ一つ地道に進めて行ってほしい。（男性・70代）

現在の日本は、未曾有の危機に瀕していると思う。自然災害や環境問題が年々深刻化している。身近なところから環境問題の解決に取り組み、市民が一丸となってこの危機を乗り越える必要があると感じる。（男性・80代）

孫の誕生により次世代へ残したいものへの関心が強くなりました。（女性・60代）